

# リアルナ



表紙の記事——  
デンマーク人の  
信仰のよりどころ、  
38ページ

幸福な家族を築く  
5つの考え、  
10ページ

入れ墨と伝道、  
18ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュユークト

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

主任編集者:ラリー・ヒラー, リチャード・M・ロムニー

グラフィックディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:ビクター・D・ケーブ

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:シャナ・パトラー, リンダ・ステール・クーバー, ラリーン・ポーター・ガント, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールソン, サラ・R・ポーター, ジェニファー・ローズ, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テラー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワウデル, キンバリー・ウェップ

主任秘書:モニカ・L・ディッキンソン

編集インター:ブリタニー・ジョンソン・ヒーム, ニュール・セイモア

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター:クレーク・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙]でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み 配送についてのお問い合わせ ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール:liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カボビア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルウワンダ語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, トバチ語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2006 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本  
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール—cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。  
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月  
原題—International Magazines March 2006.  
Japanese, 26983 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてださい。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

March 2006 no. 3 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

一般

- 2 大管長会メッセージ——靈感を伝える言葉 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 8 完全な福音——選択の自由
- 10 親の神聖な責任 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 25 家庭訪問メッセージ——神の王国の教義を教える
- 26 旧約聖書からの教訓——苦難の中の祝福 中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン
- 29 扶助協会の音 キム・ウッドベリー
- 32 山々は喜び呼ばわりなさい——第6回国際美術コンテスト出品作品から
- 38 デンマークの静かで力強い信仰 ドン・L・サール
- 44 末日聖徒の声
  - カーステンの受けた試験
  - アンジェラ・ディーナー
  - どきなさい!
  - デボラ・シャトール
  - わたしのヒーロー
  - ホルヘ・デトレフセン
- 48 読者からの便り



10 親の神聖な責任

家庭の夕べのためのアイデア

クラスや家庭において、『リアホナ』を使ってより効果的に福音を教えるために、このページに提案されているアイデアを役立てることができます。

「選択の自由」8ページ——あなたが選択の自由を使って、皆に壁を見詰めてじっとしているよう強制したとします。強制されることについてどう思うか、皆で話し合ってください。この記事を使って選択の自由について説明します。サタンが選択の自由を攻撃するうえで用いる3つの方法を、記事の中から見つけて実演してください。



「入れ墨と伝道」18ページ——記事の導入部分を使い、神殿と肉体の共通点について話し合ってください。入れ墨が招いた事態に焦点を当てながら、ポビーの話をして。肉体を神殿のように神聖に扱うことの大切さについて証してください。

「苦難の中の祝福」26ページ——目隠しをしたり、手足を布で縛ったり、耳栓をしたりして、一時的に体の自由を制限してください。不自由である間に、どのようなことを感じたか家族に尋ねてください。この記事



©2014 福音文化出版

**「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか」ジャン・アッスル画**

「週の初めの日、夜明け前に、女たち〔マグダラのマリヤもその中にいた〕は……墓に行った。ところが、石が墓からころがしてあ〔った。〕見よ、輝いた衣を着たふたりの者が、彼らに現れた。……このふたりの者が言った、『あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。』」(ルカ24:1-2, 4-6)



36 崖っ縁には近寄らない

青少年

- 7 アイデアリスト  
—聞いて、学んで、実践する
- 18 入れ墨と伝道 シャナ・バトラー
- 21 ポスター—飲み込めるとは思いますか？
- 22 主のチームに加わる R・バル・ジョンソン

- 30 短いメッセージ  
姉妹が3人  
ジェシー・ノエミ・P・パトリア  
家庭のようなどころはどこにもない  
ファーピサ・M・ツーペ  
預言者の影響  
アタ・Y・フレッド・オモクフド  
36 崖っ縁には近寄らない



30 短いメッセージ

フレンド

- F2 預言者の声—暗やみからぬけ出す  
第二副管長 ジェームス・E・ファウスト
- F4 分かち合いの時間  
—よげんしゃにしたがう リンダ・マグルビー
- F6 ウィルフォード・ウッドラフだいかんちょうのしょうがいから  
—聖書をけんきゅうする
- F8 あたえる方がさいわいである  
レーチェル・C・マードック
- F10 おもちゃばこ  
—せいてんのとうじょうじんぶつの紙人形
- F11 特別な証人—だれでしょう？
- F12 軽くされた重荷  
サンドラ・ドーン・プリムホール
- F14 小さなお友だちへ—救い主の愛
- F16 イエスのように  
—どうしてうそがつけるでしょうか



F8 あたえる方がさいわいである



F16 どうしてうそがつけるでしょうか

表紙  
写真/ドン・L・サール  
「フレンド」表紙  
写真/クレグ・ダイヤモンド

使って、苦難によって得られる祝福を見つけてください。試練を堪え忍ぶことで得た祝福を紹介するよう家族に言ってください。

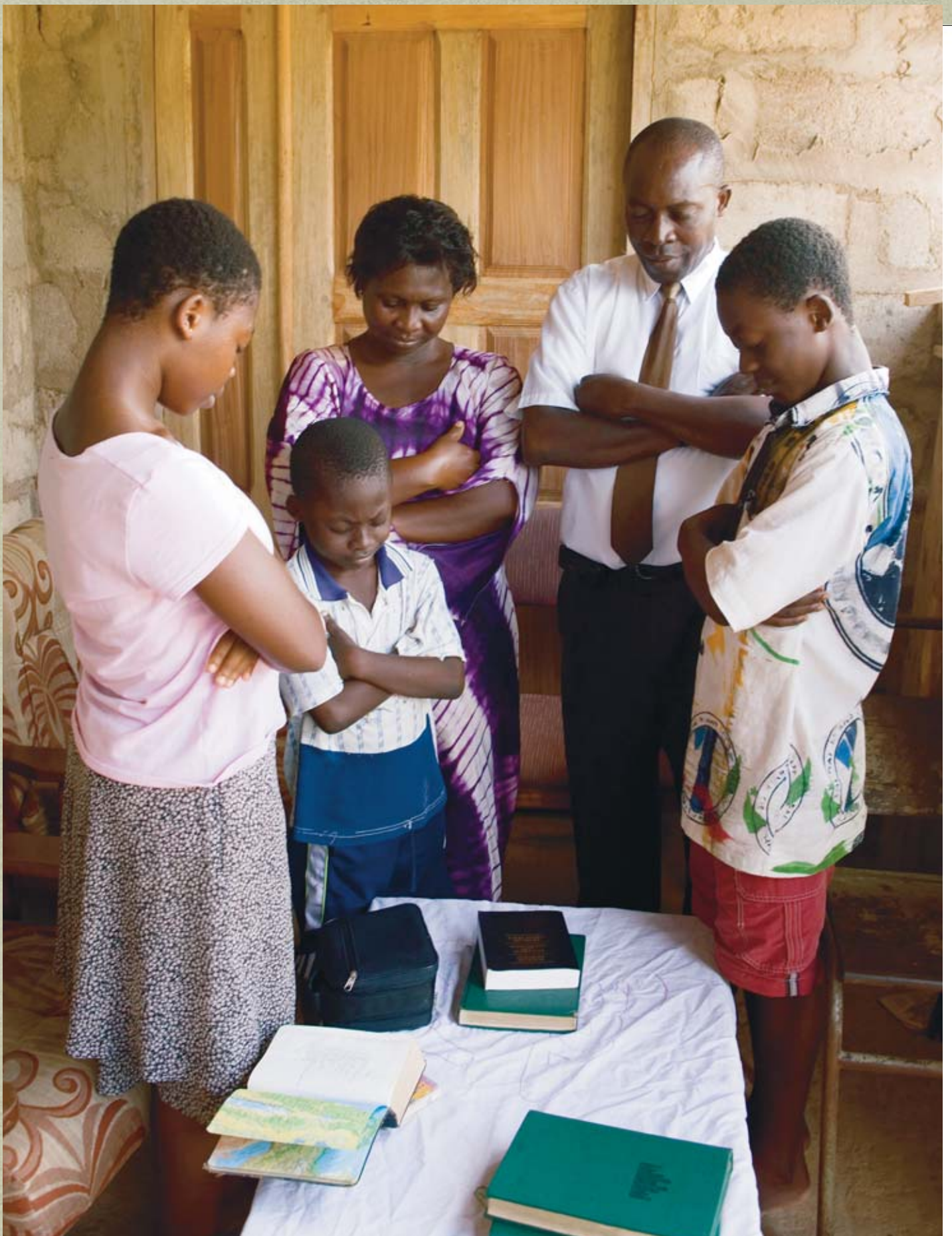
「暗やみからぬけ出す」F2ページ—部屋を暗くしてください。何が人生に暗闇をもたらすのでしょうか。家族に尋ねてください。「霊の暗闇」から抜け出すための道具を部屋の中から探すよう家族に伝えます。聖典、什分の一の振り込み用紙、賛美歌集などが挙げられるでしょう。部屋を明るくしてください。見つけたものについて記事を使って話します。天の御父との交流を改善するために役立つほか

の方法についても話し合ってください。  
「あたえる方がさいわいである」F8ページ—周りの人からしてもらった親切な行為について話すよう家族に伝えます。ウェードの物語を読んで聞かせてください。今週、親切な行いをするよう家族に言ってください。そして、次の家庭の夕べで報告するよう伝えてください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

一致	30	聖書	F6
祈り	F12	聖文研究	F10
入れ墨	18	選択の自由	8
教えること	1, 25	総大会	7
会員伝道活動	44	知恵の言葉	36
家族	2, 10, 22	父親	10
家族に関する宣言	10, 22	罪	21, 36
家庭の夕べ	1	伝道の備え	18, 22, 30
苦難	26, 44	デンマーク	38
芸術	32	仲間の圧力	36
子育て	10	母親	2, 10
使徒	F11	夫婦宣教師	2
正直	F16	扶助協会	29
初等協会	F4	ブラジル	22
試練	26, 44	ホームティーチング	6
信仰	2, F2, F12	預言者	F4
親切	F8, F14	靈感	44
神殿	2, 38	論争	10



左—写真/マシュー・ライアー、写真はイメージです

# 靈感を伝える言葉

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

## 神を信じる

「神を信じてください。永遠の父なる神を信じてください。神はこの宇宙の大いなる統治者です。しかし同時に、わたしたちが祈りを通じて近づくことのできる御父であり、わたしたちの神でもあられます。わたしたちはその息子であり、娘なのです。皆さんは、自分が神の子であり、その神性の一部を受け継いでいると真剣に考えたことがあるでしょうか。

神を信じてください。信じない者とならないでください。霊とまこととをもって神を礼拝してください。神を信じてください。神の言葉を読み、その教えに従ってください。

イエス・キリストを信じてください。……イエスは神の御子です。高い御座を去って地上に来られ、人の中に住んで、わたしたちすべてのために、すなわち、皆さんとわたしのために、命をささげられたのです。イエスを通じて、わたしたちは御父に近づきます。信じない者とならず、世の救い主であり贖い主である主イエス・キリストを信じてください。」(2002年9月10日、ロシア、モスクワ、集会)

## 揺るぎない信仰

「心の中に揺るぎない信仰を抱き続けることができますように。その信仰とは、皆さんが携

わっているイエス・キリストの福音という計画が、偉大でかけがえのないものであるという確固とした知識であり、この教会が神の王国であるという知識です。また、天の神とその愛する御子である主イエス・キリストが、この〔時代〕にとぼりを開け、その御姿を預言者ジョセフ・スミス目の前に現されたという知識です。

皆さんは、これらに対して確かな信仰を持っているでしょうか。バプテスマのヨハネの訪れ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、そしてモーセ、エライアス、またエリヤの訪れと、この大いなる神権時代の幕開けとなった神権とその鍵の回復。そして何より、この教会には真理が存在しているということ、信じているでしょうか。

心の中にそうしたことへの確かな信仰を持っているでしょうか。その信仰があれば、重荷も軽くなります。約束します。もし、持っていないなら……得る方法があります。しかも、救い主がその方法を示して、次のように言われたのです。『神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。』(ヨハネ7:17)」(2002年8月24日、ユタ州アメリカンフォーク、地区大会)

## 家族関係を築き上げる

「悔いを残すような……生活をしないようにしようではありませんか。……どれほどのお金



人が唯一携えて行けるものは、結局のところ、家族関係しかありません。

**現** 役を  
退いた人々が、  
今世界中で  
この教会のために  
宣教師として  
意義深い奉仕活動に  
携わっています。  
教え、善をなそうと、  
まったくの無私の精神で  
働いているのです。



左—写真/クレク・ダイヤモンド。右—写真/デビッド・ストーカー

を稼いだか、どんな家に住んだか、どんな車に乗っていたか、銀行にどれだけの預金があったか、こういったことはどれも大して重要ではなくなるのです。重要なことは、愛する女性が、伴侶として生涯一緒に歩んでくれたということです。また、子供たちがいて、孫たちがいて、ひ孫たちがいて、皆忠実で、また尊敬と愛を抱きつつ、敬意と温かい思いとを込めて、……皆さんのことを思い出してくれることなのです。

人が唯一携えて行けるものは、結局のところ、家族関係しかありません。……神の祝福があって、わたしたちが立派な父親になることができますように、……また、立派な親となり、妻にとって立派な夫となることができますように。」(2003年1月18日、ユタ州プレザントグローブ、集会)

### 立派な女性となり、立派な母親となる

「女性の皆さん、立派な女性となってください。立派な母親となってください。優しさと思いやりに満ちた寛大な人となってください。皆さんの信仰と証<sup>あかし</sup>によって子供たちを強めてください。高めてください。このきわめて難しい時代に育つ子供たちが、この世の危険な道を無事に歩み続けることができるよう助けてください。皆さんの愛と励ましで、夫を支え、支持し、高め、祝福してください。そのようにすれば、主は皆さんを祝福して下さいます。たとえ夫が教会員でなくとも、思いやりをもって接し、できる限りの方法で助けてください。

亡くなる時が来る前に教会員になるかもしれないのです。時間はかかるかもしれませんが。大いに忍耐が必要かもしれません。しかし、もしそうなったら、それだけの価値はあったと思うことでしょう。」(2002年10月25日、ペンシルベニア州フィラデルフィア、集会)

### 妻を敬う

「神権を持つ皆さん、妻を敬ってください。敬意を示してください。皆さんの子供たちの母親なのです。結局のところ、皆さんがこの世の生涯を終え、永遠のかなたに行くときに、それまでに蓄えた5セントすら携えて行くことはできないのです。わずか5セントすらです。携えて行けるものといえば、永遠に不滅の霊、そして、夫妻間の愛情と親密な関係だけです。それにふさわしい生き方をしてください。」(2002年5月15日、ジャマイカ、キングストン、集会)

### 家庭における愛を深める

「家庭における愛をいっそう深めてほしいと思います。……子供たちの父親であり母親である皆さん、子供を大切にしてください。愛を示してください。愛をもって……子供を導いてください。……そうすれば、子供は必ず皆さんの模範に従います。約束します。皆さんがそのようにするなら、そうしてきてよかったと心から感じる時が必ずやって来ます。そのと

きには、皆さんはひざまずいて、自分にかけてがえのない子供たちが与えられ、自分の教えに従って成長してくれたことに対して、主に感謝をささげることでしょう。」(2002年5月20日、トリニダード島、ポートオブスペイン、集会)

## 王国の神権者

「ペテロは、福音を受け入れるすべての人のために、地上に王国の神権者が存在する時代が来る、と予見しました。今はまさにその時代なのです。

愛する兄弟の皆さん、皆さんは、自分に神権が授けられているということがどのような意味を持つか、分かるでしょうか。皆さんは教会の各組織の中であって奉仕をすることができます。ある職に召されて、その職に関する諸事を執り行うことができます。しかし恐らくそれ以上に大切なことは、神権には、自分の家族の頭に手を置いて祝福する力と権能が伴うということです。妻や子供の頭に手を置いて、主の御名によって祝福を授けるという権利や特権、機会に浴している父親がこの世にほかにいるのでしょうか。それは実に偉大な特権です。皆さんにぜひお伝えしたいのは、……この偉大な祝福にふさわしい生き方をしてください、ということです。」(2002年9月9日、ウクライナ、キエフ、集会)

## 教会に忠実な者となる

「教会に忠実な者となってください。わたしにはこの教会が真実であるという証があります。皆さんも同様でしょう。……ここに集う人のほとんどは、皆立ち上がって、こう言うことができます。『わたしは、神が生きておられること、イエスがキリストであられ、この業が御二方の業であることを確かに知っています。』……忠実さを損なうような行動は決してしないでください。[教会を]守り、支え、教会のために祈ってください。また教会のために働き、教会を前進させてください。……御業の将来は……皆さんに懸かっています。教会には、忠実で信仰の篤い末日聖徒が必要なのです。……

信仰に忠実な者となってください。神に忠実な者となり、イエス・キリストに忠実な者となり、イエス・キリストの教会に忠実な者となってください。そうすることによって、自分自身に対しても忠実な者となることのできるのです。」(2002年5月15日、ジャマイカ、キングストン、集会)

「兄弟姉妹の皆さん、この教会に忠実な者となってください。

……皆さんにわたしの証を伝えたいと思います。この教会の中央幹部は、皆さんを不幸に導くような道に連れて行くことは決してありません。皆さんが信仰をもって忠実に従うならば、必ず皆さんを高める道に導いてくれるのです。」(2002年5月5日、ユタ州ソルトレークシティ、地区大会)

## 忠実かつ誠実に

「住んでいる場所にかかわらず、すべての教会員に申し上げます。どうか善良な人であってください。地域にあって善良な市民であってください。忠実かつ誠実であってください。皆さんの属するすばらしい教会の教えに誠実に歩んでください。皆さん一人一人が大切な存在です。末日聖徒という大いなる交わりの中で欠くことのできない存在なのです。皆さん一人一人が天の御父の息子であり娘なのです。主に信頼を置いてください。」(2004年11月6日、衛星放送による日本のステーキ大会)

## 夫婦宣教師

「現在、合わせておよそ5,300人〔現在は5,800人〕の現役を退いた人々が、世界中でこの教会のために、宣教師として意義深い奉仕活動に携わっています。その数は日ごとに増えています。彼らは召されればどこへでも出かけて行きます。必要とされるなら、どんな所でも仕えます。友情が培われ、技術が提供され、さらに奉仕の機会が広がります。彼らに接した人々は、教え、善をなそうと、まったくの無私の精神で自分たちのもとにやって来た人々のことを決して忘れないでしょう。彼らは報酬を何も受け取りません。自費で出かけて行きます。その献身には限度がありません。その働きの実は、計り知れないほど大きいのです。……

この教会の顕著な特質は、働くことにあります。だれでも働きます。働かなければ成長は見込めません。真理に対する信仰も証も、ちょうど腕の筋肉のようなものです。使えば強くなります。しかし、三角巾でつっておけば、弱くなって、たるんできます。わたしたちは会員が教会で働く機会を得られるようにしています。教会員に偉大な成果を期待しています。彼らは、驚くべきすばらしいことを成し遂げ、生み出しているのです。」(2002年6月12日、カリフォルニア州ロサンゼルス、国際問題評議会)



この世の  
いかなる父親が、  
妻や子供の  
頭に手を置いて、  
主の御名によって  
祝福を授ける  
という権利に  
浴しているでしょうか。  
それは実に偉大な  
特権なのです。





**主**の宮に  
参入する人は、  
だれであっても、  
より善い人となって  
そこを後にすること  
になります。

### 主の宮に参入する

「神殿に参入してください。それによって必ず祝福を受けます。主の宮に入る人は、だれであっても、そこに入る前に比べて、より善い人となって主の宮を後にすることになります。主の宮に入ることで人は精錬されます。生活の中で人のことを優先する心を養います。義にかなった生活を築きます。なすべきことを行う重要性に気づかせてくれます。どうぞ、主の宮に出かけてください。」(2002年9月22日、ユタ州プロボ、ステーク大会)

### 奉献された神の宮

「わたしたちにとって、奉献された神の宮ほど神聖な建物はありません。この地上で培われるかけがえのない関係が永遠にわたって途絶えることなく存続すると教えているのは、末日聖徒の神殿を除いてほかにありません。この教会がほかの教会から際立たせている数多くの教義の一つが、主の宮の中で、聖なる神権の権能の下で行われる業なのです。」

「この民は、不死不滅と、不死不滅の状態で神聖なきずなが継続することを確固として信じています。世界中のどの神殿も、この民の信仰を表す記念碑として建てられているのです。」(2004年8月22日、カリフォルニア州サクラメント、神殿鍍入れ式)

### 教会の大きな力とは

「[この]教会の大きな力とは何でしょうか。……それは、家族を強調していることにあります。今は、家族関係が崩壊しつつある時代です。教会は家族をきわめて強調しています。密接な家族関係を保ってください。子供たちを愛し、大切にしてください。そして、彼らが忠実かつ誠実に主を愛するよう育ててください。」(2002年9月11日、アイスランド、レイキャビーク、集会)

### 間違いなく奇跡と呼べるもの

「この大いなる業が前進していくのを、わたしはこの目で見てきました。まさに、奇跡と言っても過言でないものを見て

きたのです。……皆さんは教会の発展ぶりをとても当たり前のことのように考えるかもしれませんが。兄弟姉妹の皆さん、わたしは教会の発展を間違いなく奇跡と呼べるものだと考えています。人手によらず山から切り出された小さな石が、転がり出て全地を満たしているのです。しかも、わたしたちが見ているのはそのほんの始まりです。……わたしは、この業が進んで行って、世界中の何千万という人々の生活に影響を与える日が来ることを確信しています。この教会は天におられる神の教会です。皆さんやわたしやこの教会の会員たちが、御業を推し進めようとそれぞれの場所において託された務めを果たすとき、神は道を開いて、すべてのことを可能にしてくださるのです。」(2002年5月5日、ユタ州ソルトレーク・シティー、地区大会) ■

### ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. これから紹介する言葉は、世界的に尊敬を集める指導者の言葉であることを説明する。ゴードン・B・ヒンクレー大管長が世界の預言者であることを、家族に証する。このメッセージから幾つか選んで読む。家族にヒンクレー大管長の勧告に聞き従うように勧める。

2. できれば、世界地図か地球儀を持参し、家族の一人にその上のある地点を指さしてもらい(あるいは、どこかの国の名前を挙げてもらう)。いちばん近い地域で聖徒に向けて語ったヒンクレー大管長のメッセージを読む。時間が許すかぎり繰り返す。ヒンクレー大管長のメッセージは世界中の教会員のためにあることを説明する。

3. 小さな紙を何枚か用意して、このメッセージのすべてのタイトルを1枚に一つずつ書き出す。家族に順番に紙を1枚ずつ取って、そのタイトルを読み上げてもらい。選んだタイトルに関するヒンクレー大管長の話を一緒に読み、家族がその教えをどのように応用できるか話し合う。これらの原則に従ったときの経験について家族に話してもらい。



# 聞いて、学んで、実践する

**ド**ミニカ共和国サントドミンゴステークのカポティヨワードと、サイモンボリバルワードの早朝セミナーの生徒たちは、総大会の放送を見て、そこから学ぶことを楽しみにしています。以下に総大会から学んだことを活用するための生徒たちのアイデアを紹介します。

- \* 学ぶ心構えをよくしてから総大会に臨み、注意深く話を聞きます。断食と祈りにより、よく備えることができます。
- \* 学んだことを書き留めます。そうすれば、後でもっとよく考えることができます。
- \* 総大会について家族で話します。学んだことを伝えたり、家族の経験を聞いて学んだりします。
- \* ゴードン・B・ヒンクレー大管長の話に、注意深く耳を傾けます。ヒンクレー大管長がわたしたちにするように求めていること、またはこうなしてほしいと言っていることを、少なくとも3つ書き出します。それらについて祈り、どうしたら実行できるかを考えます。
- \* 総大会の話みたまを聞いているときや、思い巡らしているときに、行うようにとの御霊の促しを感じたら、それを実行します。
- \* 総大会で受けた勧告に従うためにいつ何をするか、目標を立てます。目標と、達成期限を日記に書き、頻繁に確認します。
- \* 指導者の言葉に無理なく従える環境にいるようにします。そうするなら、指導者の勧告を実践しようとするときに、周りから助けを得ることができます。
- \* 学んだことを友達に話します。それは友達のためにもなります。
- \* 聖なる御霊を受けるにふさわしい生活をし、大会で学んだことをどのように生活に取り入れたらよいか、導きを求めて祈ります。
- \* 教会指導者が行うよう勧めていることみことばに注意深く耳を傾け、実践し、生活を改善します。「御言を行う人になりなさい。……ただ聞くだけの者となつてはいけません」ということを忘れないでください(ヤコブの手紙1:22-25参照)。
- \* 話の中で引用された聖句を調べ、印を付けます。
- \* 届き次第、『リアホナ』の大会号を読みます。そうすることで新たなことに気づいたり、意欲を持ったりすることができます。■

# 選択の自由



## 回復された福音の基本的な信条と 末日聖徒イエス・キリスト教会特有の教義を 検証するシリーズ

**キ**リスト教の基本的な教えは、神がその子供たちに自由意志、つまり選ぶ能力と特権をお与えになったということです。しかし、モルモン書と末日の預言者や使徒が福音のほかの真理とともに教えている選択の自由は、力に満ちた教えであり、人にとってどこまでもかわりがあるものです。

### 永遠の原則

選択の自由は、天の御父がその子供たちのために立てられた計画の中で不可欠なものです。選択の自由がなければ、御父のようになることができないからです。選択の自由は、すべての英知ある存在に備えられた永遠の特質です。それは誕生とともに与えられたものではありません。わたしたちは、前世にいたときから選択の自由を与えられていました。主が

このことを明らかにされています。

「人もまた初めに神とともにいた。英知すなわち真理の光は、創造されることも、作られることもなく、実にそうすることのできないものである。

すべての真理は、神がそれを置かれた領域において独立し、それ自体で作用する。すべての英知も同様である。そうでなければ、存在というものはない。

見よ、ここに人の選択の自由があ[る。]」(教義と聖約93：29-31)

わたしたちは、人間の自由をお認めにならない神、すなわち、その子供たちの終局の行く末を事前に決めてしまわれる神を信じているのではありません。むしろ子供たちの選択に対して完全な先見の明をお持ちになる神を信じているのです。神はわたしたちを導き、警告の声を上げるためにこの見識を使われることはありますが、選択の自由を妨げるためにお使いになることはありません。神は、わたしたちがほんとうになりたい者になる自由を与えてくださっています。十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老(1862-1933年)は次のように書いています。「神は一人一人の人間が、与



えられた条件の下に何をするかを知り、また初めから終わりまでを見通される。神の先見の明は、英知と理性に基づいている。神は将来を当然または確実にそうなる状態として先見される。神は未来を、自分がそうしようと心の赴くままに決めて、そうならなくてはならない状態として先見しておいでになるのではない。』<sup>1</sup>

ほとんどのキリスト教会が、神は無から子供たちを創造されたと信じています。もしこれが真実であれば、神はわたしたちの悪い行いについて責めを負われることでしょう。わたしたちの欠点や弱さを作られたことになるからです。しかし、神は無からわたしたちをお造りになったわけではありません。また、わたしたちの弱点や罪に責任を持っておられるわけではありません。神はただ霊の子供たちをこの世界に置かれ、選択の自由を正しく使うなら、学び成長できるようにしてくださったのです。

### 選択の自由に伴う条件

十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老(1915-1985年)は、選択の自由に伴う4つの条件を教えました。

1. 全能の力によって定められた律法がなければならない。  
人は従うか従わないかを定めることができる。
2. 反対のもの(善と悪、真実と誤り)がなければならない。
3. 人は善と悪を見分ける知識がなければならない。また相反するものの違いを知らなければならない。
4. 自由に選べる力を持っていなければならない。<sup>2</sup>

選択の自由という祝福を十分に享受するには、自分の選択にも責任を持たなければなりません。律法が存在すれば、結果が伴います。それは、うそをついて人をだませば信用を失うといった、わたしたちの行動から生じる当然の結果だけではないのです。律法は、それに従う人には神の祝福をもたらし、従わない人には罰をもたらします。

### サタンは選択の自由を攻撃する

主は前世についてこうおっしゃいました。「サタンはわたしに背いて、……人の選択の自由を損なおうとした……。」(モーセ4:3) 反逆の結果、ルシフェルは天から追い出されましたが、なおこの地上でわたしたちの選択の自由を損なおうとしています。サタンは様々な方法を用いていますが、そのうちの二つを紹介します。

**選択の自由を賢く用いるなら、善を行い、周りの人を祝福する機会は計り知れないほど広がるでしょう。**

**不従順** 「見よ、ここに人の選択の自由があり、またここに人の罪の宣告がある。なぜならば、初めからあったものが分かりやすく示されているのに、彼らはその光を受け入れないからである。……そして、あの邪悪な者が来て、人の子らから、不従順によって、……光と真理を取り去る。」(教義と聖約93:31, 39) 不従順は二つの意味で選択の自由を損ないます。第1に、光と真理を失うと、善いことを行えるたくさんのお機会を逃してしまいます。第2に、ある種の不従順は習慣性があり、容易にやめられないような行いにはまってしまうことがあります。また周りの人を傷つけ、彼らの選択の自由を損なってしまうこともあります。

**無責任** サタンは耳もとでささやきます。「飲み食いし、楽しみなさい。しかし同時に神を畏れなさい。神は少しの罪を犯すことは許してく

ださる。……たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。」(2ニーファイ28:8) ある人々(ひとたび)は一度「キリストを告白」し、「恵みによって救われ」さえすれば、何をしても救われると思いついています。この教義はサタンの巧妙な手口なのです。罪に対する責任は負わなくてよいし、罪の結果を受けることもないと主張し、今でもわたしたちを欺こうとしています。

### 選択の自由から受ける祝福

選択の自由を用いて義を選ぶとき、神から祝福を受けるだけでなく、選択の力を強め、高めることができます。わたしたちに正しい判断ができると天の御父が判断し信頼を寄せてくださるなら、愛ある両親ならだれでもするように、新しい経験やより多くの責任を与えてくださいます。このように選択の自由を賢く用いるなら、善を行い、周りの人を祝福する機会は計り知れないほど広がるでしょう。従順は、さらに大きな選択の自由へとわたしたちを常に導き、より多くの可能性を与えてくれます。わたしたちのすばらしい機会を奪うのは罪なのです。■

#### 注

1. 『キリスト・イエス』28
2. *Mormon Doctrine* 第2版(1966年), 26. 2ニーファイ2:10-29も参照

# 親の神聖な責任



家庭で何を実践し  
教えるかが重要です。  
家族の宣言を  
主要なテキストにして、  
幸せで安定した家庭を築くための  
5つの考えを紹介します。

十二使徒定員会  
M・ラッセル・バラード

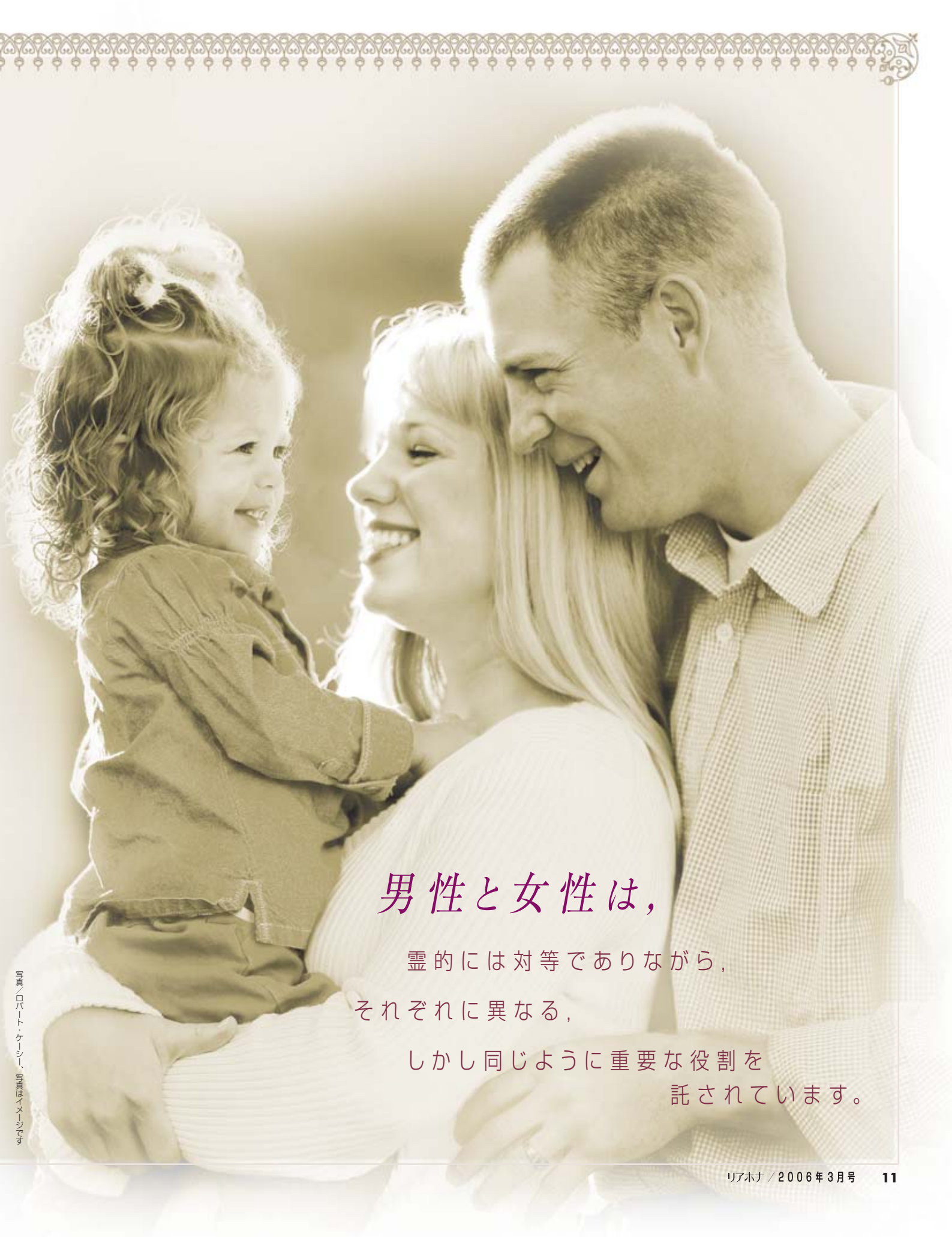
**わ**たしは十二使徒定員会の一員として、「家族——世界への宣言」の草案作りに参加しました。参加した全員にとって、それは貴重な経験となりました。教会の指導者として世界各地を訪問し、教会内外で起きている様々な事柄を目にしますが、その多くにわたしたちは心を痛めています。世の人々が作り上げようとしている家族の定義には、神がその子供たちの幸福のために作られた永遠の計画と矛盾する点が多々含まれています。

この件に関して世の中で起きているあらゆる問題のただ中であって、大管長会と十二使徒定員会は、啓示によって示された、神の永遠の計画における家族の真の役割を、世界に宣

言することの重要性を痛感しました。神の靈感により、教会の最高機関として設けられた評議のプロセスを通じて、わたしたちは、家族に関する主の御心<sup>みこころ</sup>を誤解の余地がないほど明白に示すために、この宣言を作成しました。

宣言が発表されてからほぼ10年がたち、そこに述べられている預言的声明の真実性は、驚くほど明白になってきました。教会はかつてないほど、家族を支え強めることに力を注いでいます。悲しむべきことに、世界中の家族は容赦ない攻撃に絶えずさらされています。家族に対する戦いがどんなに公然と繰り広げられ、どれほど危険であるかは、新聞やテレビを少し見るだけで十分理解できます。性差の認識が乱れつつあります。男女の役割という考えも拒絶されてきました。同性結婚も増加し続けています。つまりこの世は「神の子供たちを現世にもたらず」という神の最も重要な目的とはまったく逆の方向へ進んでいるのです。

家族は単に社会の基本単位ではありません。永遠の基本単位です。わたしたちはこの世に存在する前に、天の御父の霊の息子、娘として生活していました。前世において大家族会議が開かれました。そこで、御父は、子供たちの永遠の幸福と平和に関する計画を提示されました。わたしたちは地球に来て、家族として生



男性と女性は、

靈的には対等でありながら、  
それぞれに異なる、

しかし同じように重要な役割を  
託されています。

活するのだと告げられました。そして、メルキゼデク神権の結び固めの権能によって、永遠の家族として生活することができる

と知らされました。現代社会において家族が激しく、また露骨に攻撃されているのを見ると、不安になります。宣言は次のように、きわめて明瞭に述べています。

「わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。……

た。毎年世界中で推定4,600万件もの墮胎が行われています。妊婦の4人に1人が墮胎すると推定している人々もいます。

結婚を、子供を育てる制度というよりはむしろ成人の感情的欲求を満たす「二人だけの関係」と見なしている人があまりに多すぎます。子供を育てることを、祝福というよりも選択と考えているのです。年間約100万人の子供が、親の離婚に直面しています。その余波で、アメリカの子供の3分の1が結婚していない親のもとに生まれています。こうした風潮はほとんど例外なく、神がその子供たちのために作られた計画から人々が急速に離れようとしていることを表しています。かつてだれもが社会の基本単位と考えてきた家族は、その本

## 父親は 聖霊の導きを常に求めなければなりません。

すべきこと、語るべきことを知る必要があるからです。

またすべきでないこと、語るべきでないことも

知る必要があるからです。

……子供たちは結婚のきずなの中で生を受け、結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は、主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」<sup>1</sup>

兄弟姉妹、この時代の中で確固としていなければなりません。今や悪魔は、一人の男性と一人の女性による結婚を時代遅れに見せようとして、異質なライフスタイルを持ち込んでいます。わたしたちは世界のあらゆる人々に、この宣言の全文を読むことをお勧めします。

### 悪魔は家族を攻撃している

家族への攻撃は、命、特に胎内にいる命をも軽視させようとしています。命の価値は過小評価されてきました。赤ん坊が無事に生まれるかどうかは、親の都合や、政治家が何を正義と呼ぶかに左右されています。次の話を聞いたなら、皆さんも、わたしと同様に心を痛めることでしょう。1950年から1997年の間に、産業化の進んだ約46の国と発展しつつある9つの国が、墮胎を合法化するか、墮胎規制の大部分を廃止しまし

質的な役割を失いつつあるのです。

悪魔の戦術という視点で考えてみると、家族を攻撃するのは理にかなっています。悪魔は主の業をくじくために、世界中のピーナツバターに毒を混ぜて、宣教師の働きを挫折させるようなことはしません。モルモンタバナクル合唱団を苦しめるために、のど風邪を流行させるようなこともしません。教会員が好きなゼリーやキャセロールを禁止する法律を作ったりもしません。神の業の根幹を攻撃し、混乱させたいなら、悪魔は家族を攻撃します。貞潔の律法を軽んじさせ、性差を混乱させ、神が子供たちのために作られた計画を攻撃するのです。父親と母親の調和が乱れるように仕掛けます。両親に従わないように子供を誘惑します。家庭の夕べや家族の祈りを厄介なものと思わせます。家族の聖文学習は実行できないとささやきます。サタンの側からすればそうするだけでよいのです。なぜならサタンは、主の業をじゃまするのに最も確実に効果的な方法は、家族の役割を損ない家庭の神聖さをおとしめることだと知っているからです。

サタンのこのような攻撃の結果を考えてみましょう。関係がうまくいっていない夫婦は、子供に福音を適切に教えなく

なる傾向があります。自身の生活の中でも福音の原則に従う気持ちが薄れてきます。教会から離れる人も出てきます。活発な会員でさえ無感動になり、神殿から遠ざかります。指導者や教師としての力が衰えてくるので、彼らから霊的な養いを受けるはずの人が大勢放置され、その分だけ主の業が減速します。また、イ

からといって、神がその子供たちに用意された偉大な計画において、両性が同じ役割を果たすという意味ではありません。家族の宣言の中で明白に述べられているように、男性と女性は、霊的には対等でありながら、それぞれに異なる、しかし同じように重要な役割を託されています。それぞれの役割は、互いを補い合うも



ンターネットは使い方を誤ると家庭に邪悪な影響を及ぼします。ですからルシフェルは疑いもなく家族の敵なのです。

### 幸福で確固とした家庭を築く

家庭で何を実践し教えるかが重要です。家族の宣言を主要なテキストにして、幸せで安定した家庭を築くための5つの考えを紹介します。

**1. 完全に対等なパートナー** 結婚によって結ばれた男性と女性は、完全なパートナーシップを保ってともに働くことが必要です。しかし男性と女性が完全に対等なパートナーだ

のです。男性には神権の神聖な儀式について、管理の職が与えられています。女性は神から、現世に子供をもたらし、育てることについて、管理の職が与えられています。その役割を果たすために女性は、神の霊の子供に肉体を与え、福音の真理を知ることができるよう教え導きます。これらの管理の職はどちらも同じように神聖かつ重要であり、支配や従属という偽りの概念は含まれていません。どちらの管理の職も、家族全員の霊的進歩のために必要不可欠です。親にとっても子供にとっても、同じように大切なのです。



したがって、家族の管理の職は、義務と責任という観点から、また愛、奉仕、相互依存という観点から理解しなければなりません。妻を支配しようとする男性は、また妻の助言や気持ちを考慮しないで不義な支配を始めようとする男性は、そのような行為が神の御心に反することをまったく理解していないのです。



**2. 父親** 家族の宣言にはこう述べられています。「父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。」家族に福音を教え、教義と聖約第121章の勧告に従って優しく導きます(34-36節参照)。

父親は神権の儀式を執り行い、父親の祝福や神権のそのほかの祝福を子供に授けます。父親は家族のために、また家族とともに祈りま

す。家族全員を集めて祈ることも、また家族一人一人と個別に一对一で祈ることもあります。子供たちの母親であり永遠の伴侶である妻を愛し敬っていることを、模範によって示します。すべてのことにおいて救い主の模範に従います。また、主の名と主の祝福にふさわしくあるように努めます。父親は聖霊の導きを常に求めなければなりません。すべきこと、語るべきことを知る必要があるからです。またすべきでないこと、語るべきでないことも知る必要があるからです。父親は家族と教会に愛と熱意をもって仕えます。家族全員が奉仕できるよう、模範によって、家族を備えるのです。特に息子たちがふさわしい宣教師として奉仕できるように備えなければなりません。

神と預言者は父親に対して、家族に必需品を供給するだけでなく、家族を守るよう求められています。わたしたちが暮らす世界には、ありとあらゆる危険が存在しています。天災からも人災からも家族を守ることが必要です。道徳的に有害なものも至る所にあります。子供たちは幼いころからそのようなものにさらされています。父親はそのような罠から子供を守る大切な役割を担っています。

家族を管理し、必需品を供給し、守ることが、父親の役割ではありません。父親が毎日の生活の中でできること、すべきことがあります。それは、幼い子供に食べ物を食べさせ、一緒に遊び、物語を読んでやり、愛を示し、家庭を築くために必要なあらゆることをして、子供たちに欠くことのできない養いを与え、きずなを強めることです。

**3. 母親** 家族の宣言にはこう述べられています。「母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。」養い育てるとは、愛すること、支えること、きずなを強めること、愛着を持つこと、子供独自の能力を認めること、子供の必要にこたえること、などの親としての役割を指します。養い育てることこそが、子供の成長にとって、子育てのどんな技術やテクニックよりも重要です。養い育てるための理想的な環境は、安定した、安全な家庭であることは言うまでもありません。

母親の愛によって養い育てられると、まだ幼い子供たちの心に、前世で味わった愛とぬくもりの記憶がよみがえってきます。母親から愛されると、神から愛されていることも理解できる、もっと正確に言えば、思い出せるのです。

今日の物質主義的な社会では、「もっと稼いで、もっと消費しよう」という風潮が非常に強くなっています。その結果、不幸にも、夫が働いているにもかかわらず、第2の収入源を得るために、子育て中の妻が家の外で働くケースが増えています。生活必需品と欲しいものとは違うことを、夫、妻、子供が理解できるようになれば、家族の財政負担は軽くなり、母親が家にいられるようになります。家の外で働くべきかどうか決めるのは、複雑で難しいことです。生ける預言者の勧告を心に留め、祈りを通して決める必要があります。

## 母親の愛によって養い育てられると、

前世で味わった愛とぬくもりの記憶が

よみがえってきます。

常にこまやかな愛を示してくれるゴードン・B・ヒンクレー大管長は、次の賢明な見解を述べています。

「家族の生活のために働かなければならない女性がいることは認めています。実際そのような女性が非常に増えています。そのような人々にお伝えします。どうか、皆さんの最善を尽くしてください。皆さんがフルタイムで働く理由が、基本的な必要を満たすためであり、高価な家や自動車、ぜいたくな生活のためでないことを望んでいます。母親の最も大切な仕事は、義と真理のうちに、子供を育て、教え、助け、励まし、養うことです。母親の代わりになり得るものは、何もありません。

フルタイムの仕事とフルタイムの主婦業を両立させるのは、ほとんど不可能なことです。このことでいろいろと思悩んでいる女性がいると思います。もう一度申します。皆さんの最善を尽くしてください。」<sup>2</sup>

自分では何一つできない幼い子供の世話は、終わりがなく、ストレスを感じることもしばしばです。母親は、「子供と時々『上質な』時間を過ごしていれば、いつも子供と『十分な』時間を過ごす必要はない」というささやきに負けてはなりません。

質は量にじかに左右されます。ですから子供を適切に養い育てるためには、母親は質と量の両方を与えねばなりません。そのためには、常に目を覚ましておき、次から次へと起こる出来事に手際よく対応することが必要です。それはほんとうに大変な仕事です。

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、賢明な勧告を与えています。

「この時代の女性たちは『一度に全部手に入れなさい』という声を耳にしています。富を得、旅行をし、結婚して、母親になり、社会に出て独自の仕事を持つ、これらを全部同時にしなさい、という声です。……

順々に行うこと、つまり、役割を一つずつ順番に果たしていくという方法は、いつも可能なわけではありませんが、その方法ですれば、そのときにすべき一つの役割を十分に果たすことができ、さらに、一生を通じて様々な役割を果たすことができます。女性は……一つ以上の職業を、人生の様々な時期に組み入れていくことができます。例えば1番から5番まで歌詞がある歌を歌うときには、順番に歌えばよいのであって、すべての歌詞を同時に歌おうとする必要はないのです。」<sup>3</sup>

**4. 結婚と家庭の原則** 家族の宣言にはこう述べられています。「実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、<sup>ゆる</sup>赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとり確立され、維持されます。」両親は子供との間に愛にあふれた永遠のきずなを築くように努めなければなりません。時にはしかなかったり、しついたりすることが必要でしょう。しかしそのようなときは、子供の感情を傷つけないように納得させなければなりません。しかった後で子供から敵視されることのないように、いっそうの愛を示す必要があります(教義と聖約121:43参照)。<sup>4</sup>

甘やかしすぎたり、放任して好き勝手にさせたりするのも、子供のためになりません。親は制限を設ける必要があります。何をどの程度制限するかは、事柄の重要性や、子供の性格や発達に合わせる必要があります。規則の必要性を理解させ、規則を破ったときには適切なしつけをして、常に規則に従わなければならないことを教えます。正しい行動を取ったときには褒めることも大切です。この兼ね合いを上手に図るには、創造力と忍耐が必要になりますが、その報いは大きいでしょう。大切な規則を守る努力を通して、してはいけないことがある

と理解した子供は、学校にもよく適応し、自己をよくコントロールできるようになり、法律にも進んで従うようになります。<sup>5</sup>

両親は子供に選択する機会を与える必要があります。また、子供が現実の社会に行く日に備えて、ルールを適切に調節していかなければなりません。<sup>6</sup> そうするために、親は子供の言葉に耳を傾けなければなりません。真剣に耳を傾けてください。それぞれの子供にとって何が重要なのかを理解するのは、わたしはそのことを、娘から随分昔に学びました。当時、娘はまだ4歳か5歳で、ある日、とても興奮して部屋に入って来ました。娘には何かとても大切な話があるよう

大半を解決することができました。<sup>7</sup>

家族には様々なタイプがあるので、家族会議もそれに応じて様々です。家族会議は一人の親と一人の子供で構成することができます。また、両親と数人の子供たち、両親だけ、きょうだいだけ、など様々なメンバーで構成することができます。大切なのは家族会議の人数や構成ではなく、愛が動機になっていることと、自由に心を開いて話し合える雰囲気です。また、全員の正直な意見と聖霊のささやきに進んで耳を傾けることが大切です。<sup>8</sup>

## 両親は 子供との間に愛にあふれた

永遠のきずなを築くように努めなければなりません。

でしたが、わたしは新聞を読みながら「うん、うんうん」と相づちを打つだけでした。すると突然、娘は小さな二つの手で新聞をたたき落とし、両手でわたしの顔を挟んで、わたしの目をまっすぐ見据えました。そして、この4、5歳の幼い娘は父親に大切なことを教えたのです。「お父さん、わたしの話を聞いていないでしょう。」娘の言うとおりでした。

**5. 家族会議** 両親にとって最も力強い助けになるものとして家族会議を挙げるすることができます。皆さんはわたしが家族会議について話すのを期待していたことでしょうか。その大切さは幾ら強調してもしすぎることはありません。家族会議は、家庭の問題を理解し合い、話し合うのに役立ちます。ともに暮らす家族の中に普段とは違う対立があるのに気づいたときには、そのことについて話し合うために家族会議を開きます。父親と母親は自分たちが見たままの様子を子供たちに伝え、どう感じているか一人一人に聞きます。例えばある家庭では、年長の子供二人が、一人は結婚のため、もう一人は大学のために家を出て以来、まだ家にいる子供のうち年上の二人に不当に重い責任がそのまま移ってしまい、二人はだんだん不満を募らせるようになりました。それを知った両親は、皆を集めて話し合い、子供たちがどう思っているかを聞きました。その結果、この家族では子供たちの責任分担をもっと公平にすることができ、家庭内の欲求不満と摩擦の

### 争いを鎮める

たとえ今あなたの家庭に争いがあるとしても、状況を変えることができます。家族と話し合ってください。家族に助けを求めてください。家庭内の争いはもうたくさんだと話し、争わないようにするために各自に何ができるかを話し合ってください。マリオン・G・ロムニー第一副管長(1897-1988年)はこう教えています。

「家庭にあって両親が、夫婦として、また子供を交えて家族として、ともに祈りをもって定期的にモルモン書を読むようにするならば、家庭はこの偉大な書物からわき出る特別な力で包まれ、家族一人一人がその力強い影響を受けることでしょう。家庭はこれまで以上に敬虔な雰囲気けいけんに包まれ、一人一人が互いに尊敬し合い、関心を持つようになるでしょう。そして、いがみ合うようなことがまったくなくなります。」<sup>9</sup>

また、祈りには偉大な力があることを覚えておいてください。個人でも、また家族でも祈るよう強く勧めます。祈りは家族を堅固にするために大切です。しかし、そのほかにも強調したい大切なことがあります。両親の皆さん、夫婦の皆さん、皆さんは、一日の終わりに二人だけでひざまずき、手を取り合い、祈りをささげるといふ、非常に大切な時間を持っていますか。もしそれが日々の日課から抜け落ちていたら、再び始めてくださるよう勧めます。今夜から始めてください。

世界中の親の皆さん。わたしの勧告は単純明快です。「家族——世界への宣言」を手に入れて、読み、皆さんの結婚生活と家庭生活が、靈感によって明らかにされた主の教えに添う

わたしたちの主であり、救い主であられます。御二方はわたしたちを愛し、わたしたちが忠実で、幸せであるように望んでおられます。■



ように努力してください。そして、最高の自分になり、最高の振る舞いをするよう努めてください。神がその子供たちに与えられた、現世で最も神聖な責任を果たそうと皆さんが日々努力するならば、神は皆さんが持つ力以上の力を与えてくださいます。御霊の<sup>みなたま</sup>声と生ける預言者の勧告に耳を傾けてください。元気を出してください。神は失敗させるために皆さんを地上に置かれたのではありません。親としての皆さんの努力は、皆さんがあきらめないかぎり、失敗とは見なされないでしょう。

天の御父が皆さん一人一人を祝福して下さいますように。神は生きておられます。わたしたちは神の子供です。イエス・キリストはわ

2003年8月19日、ブリガム・ヤング大学、教育週間におけるディボーションでの説教から

注

1. 『リアホナ』2004年10月号, 49
2. 『教会の女性』『聖徒の道』1997年1月号, 78
3. "A Message to My Granddaughters: Becoming 'Great Women,'" *Ensign*, 1986年9月号, 18-19
4. クレーグ・H・ハート "Three Essential Parenting Principles," *BYU Magazine*, 2003年春号, 58参照
5. "Three Essential Parenting Principles" 59参照
6. "Three Essential Parenting Principles" 59参照
7. M・ラッセル・バラード, *Counseling with Our Councils* (1997年), 154参照
8. *Counseling with Our Councils*, 157参照
9. "The Book of Mormon," *Ensign*, 1980年5月号, 67

# 入れ墨

## と伝道

シャナ・バトラー  
教会機関誌

**今**、白く美しい神殿を前にして立っていると想像してみてください。神殿の壁にも敷地にも、汚れがまったくありません。玄関に近い芝生に画家がいて、だれも見えるように自分の絵を展示しています。

しばらくすると、画家が体の向きを変え、ペンキの缶を取り出し、神殿の壁に絵を描きだします。見苦しい絵ではありませんが、どう見ても、その場に似つかわしいものではありません。あなただったら、彼に何と言いますか。絵をもっと大きく、もっとカラフルにしてほしいと頼みますか。そして、彼の作品にお金を払おうとしますか。それとも、こう言うでしょうか。「やめてください。ここは聖なる神殿です。」

では、これがあなたの神殿だったらどうでしょう。使徒パウロは次に語っています。「あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。……なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。」(1コリント3:16-17)

「入れ墨は肉体という神殿に描かれた落書きです」とゴードン・B・ヒンクレー大管長は語っています。<sup>1</sup>

入れ墨は永久に消えることはありません。入れ墨は肉体を傷つけるだけではありません。預言者の声に従わず、入れ墨を入れるという選択をすることによって、霊的にも傷つくことになります。その上、考えたこともないかもしれませんが、入れ墨があると、宣教師となるための申請にも影響するのです。

### ボビーの過ち

ボビー・コリンズ(仮名)は伝道に出るため書類を送付しま

したが、驚いたことに、届いた来たのは召しを告げる白くて大きな封筒ではありませんでした。その代わりに受け取ったのは、自分がしていた入れ墨について尋ねる教会の伝道管理部からの手紙だったのです。

高校卒業の時点で、ボビーは伝道に出るかどうかもまだ決めていませんでした。就職のために家を離れ、常に傍らに両親がいないという自由な環境を気に入っていました。同じころ、親友といとこが二人とも、入れ墨を入れました。

「それでちょっと警戒を緩めてしまったのです」とボビーは語っています。

ボビーは以前から絵を描くのが上手でしたので、自分で入れ墨の図案を考えました。入れ墨はしないようにと教会では勧められており、母親も賛成しないことは承知していました。そこで入れ墨を入れる前に、兄に意見を求めました。兄は良いアドバイスをしてくれました。「人は一生のうちに何度もけがをしては傷跡が残るのに、どうして自分から余分な傷跡を作りたいなんて考えるんだい？」

しかし、ボビーはすでに決心を固めていたのです。苦勞してやっとためた700ドルと、6週間という時間を費やして、片方の足に、上から下まで入れ墨を入れました。「ほんとうに痛かったです。血まみれになりました」と当時を振り返っています。しかし、「入れ墨を一度入れてしまうと、もっと入りたいと簡単に思うようになりました」ただ、ボビーはもうそれ以上入れ墨を入れることはありませんでした。そして、後に福音に対する証が<sup>あかし</sup>強まると、今度は、伝道に出ようと決心したのです。

入れ墨を入れる痛みもさることながら、ボビーが感じた後悔

の痛みはそれ以上の  
ものでした。  
伝道に出られ  
るかどうか  
心配でなり  
ませんでした。  
入れ墨を消  
したいと思  
いましたが、  
経済的な余  
裕がありません。  
将来の伴侶<sup>はんりよ</sup>  
や子供が自分の  
入れ墨をどう思  
うかと悩みました。

「伝道管理部からの手  
紙にはほんとうに怖い思  
いをしました」とボビーは語  
ります。「いちばん心配  
だったのは、この入れ墨の  
せいで伝道に出られ  
なくなるかもし

れないということでした。」

伝道管理部が入れ墨を入れている  
すべての宣教師志願者に求  
めている手順を、ボビーも踏  
まなければなりません。自  
分の入れ墨については、最  
初に送った申請書の中で少  
し触れていました。後で送  
られてきた手紙には、もう  
少し詳しい情報、例えば、  
いつ、どういう理由で入れ  
墨を入れたか、体のどの部  
分にあるかについての説明、  
どんな入れ墨かを言葉で説  
明するか写真を送るよう  
に求められました。

また、自分の入れ墨  
についてどう思

うかについても記述しなければなりません。

入れ墨のある宣教師志願者が伝道に出る申請をすると、中央幹部は個別に調査し、志願者が伝道に出てもよいかどうかを決定します。中には伝道に出られない志願者もいます。

ボビーは、最終的には、伝道の召しを受けました。彼は、宣教師になれたことに感謝していますが、主の教会の代表として働いている今、かつて入れ墨を入れようと思ったことを後悔しています。

入れ墨のある宣教師は、文化的に入れ墨が容認されている国で働いたりすることがあります。また長そでやタイツ(女性の場合)で入れ墨が隠せるような寒冷地で働いたりすることにもなります。入れ墨によって制限されるのは任地だけではありませ



## あなたは 神の創造物です

「皆さんは神の子です。皆さんの肉体は神の創造物なのです。その創造物に、人や動物や文字を刻み込み、傷つけていいはずがありません。

入れ墨をしている人は、自分の行為を後悔する時が来ることをわたしはお約束します。入れ墨は洗い流すことができません。永久的なものだからです。取り除くことができたとしても、多額の出費と苦痛に満ちた過程を伴います。入れ墨をすると、恐らく人生の残り全部、その入れ墨とともに生活することになります。入れ墨のために恥ずかしい思いをする時が来るとわたしは信じています。入れ墨を避けてください。わたしたちは、皆さんを愛する皆さんの教会指導者として、主がお与えになった肉体に対してこのような不敬な行為をすることがないよう心からお願いします。」

大管長  
ゴードン・B・ヒンクレー  
「若人への預言者の勧告と祈り」  
『リアホナ』2001年4月号, 37

ん。その模様や言葉、志願者の気持ちによっては、入れ墨は伝道に出られるかどうかを決定する要因になるのです。

## 将来の宣教師への助言

「ヒンクレー大管長の勧告に、とにかく従ってほしいと思います」とボビーは語ります。「ヒンクレー大管長は、確かに神の預言者です。大管長が大切だと言うのなら、確かに大切なのです。」

ボビーにも、兄から受けたかつての助言と同様、次のような自分なりの助言があります。「<sup>あがな</sup>「贖いを通して<sup>ゆる</sup>赦しが得られるとはいえ、傷跡が残るような余計なことはしないことです。」■

注

1. 「あなたがたの子らの平安は深い」『リアホナ』2001年1月号, 67参照

## 医療関係者からの助言

イナ・プロコペンコはユタ州ソルトレーク・シティーに住む正看護師であり、資格を持つ優れたエステティシャンでもあります。これまでに仕事で幾度となく人々の入れ墨を消そうとしてきました。イナは入れ墨について次のように語っています。

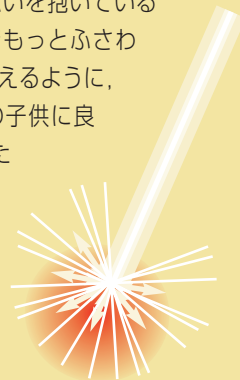
### 肉体的な危険

- 入れ墨に伴う大きな危険性の一つに、インクアレルギーがあります。即座に現れることもあれば、6か月あるいは1年たって現れることもあります。インクアレルギーを起こすと入れ墨を入れた部分のはれ、赤みを帯び、かゆくなります。インクが血液内に流れ込んで、症状がかなり悪化することもあります。
- 別の危険性として血液感染性の病気が挙げられます。入れ墨用の針やその他の道具がきちんと消毒されていないと、HIVウィルス(訳注—免疫をつかさどる細胞に侵入し、エイズやエイズ関連疾患の原因となる)に感染したり、その他の病気を患ったりする可能性が出てくるのです。



めに、入れ墨を消そうとする人が大勢います。

- レーザーによる入れ墨除去によって、ある程度、少なくとも部分的には、入れ墨を消すことはできますが、最初に入れ墨を入れるときよりはるかに大きな苦痛が伴います。
- レーザー治療により傷跡が残ることは少ないものの、その可能性はあります。
- 黄色い入れ墨、つまり黄色いインクを用いた入れ墨は、手術によってしか取り除くことができません。
- 除去治療は時間も費用もかなりかかります。入れ墨を入れるときよりもはるかに多額の出費となるのです。



# 飲み込めると 思いますか？

罪を甘く見てはいけません。遠ざかりましょう。  
(教義と聖約88:86参照)





# 主のチームに加わる

R・バル・ジョンソン

教会機関誌

**ラ**ファエル・ケイロスはバレーボールのネットを見詰めながら、ボールを上高く投げ、2、3歩前に踏み出してから大きくジャンプします。一瞬、重力に逆らって、体が宙に浮いているように見えます。次の瞬間、前に来たボールを力を込めて強く打つと、すさまじい速さでボールはネットを越えて行きます。

それを見ただれでも、ラファエルが放つあの強烈なサーブを相手方はどうすれば打ち返せるのかと思うことでしょう。驚きのあまり目を丸くして、ただ「すごい」とつぶやいただけかもしれません。

一方ラファエルはただ肩をすくめるだけです。サーブが決まったことにほんの少し満足そうな顔を見せながらも、ブラジル人の謙遜な青年はこう語ります。「ほんとうは、ぼくはサッカーの方が好きなんです。でも、試合に出られるほど機敏には動けないので、バレーボールをしているんです。」

恐らくそれは体が大きいためでしょう。身長196センチ、体重94キロの体では、小さく軽い選手と同じように素早く動くことはできないかもしれません。しかし、背の高さと体重のおかげで、ネットすれすれの強力なボールを打つことができます。よほど勇敢な人でなければ彼のボールを受けようとは思わないでしょう。

好きなスポーツはサッカーかもしれませんが、ラファエルの得意なスポーツは何と言ってもバレーボールです。どのくらい得意かといえば、高校の全国大会で決勝戦に出場したほどです。ラファエルは「それは、ぼくの人生でいちばん幸せな3日のうちの1日でした」と言います。

では、ほかの2日とはどんな日なのでしょう。「1日は、バプテスマを受けて教会員になった日で、もう1日は祝福師の祝福を受けた日です。」

ブラジルのレシフェ・ボアビアジェンステーク、ジャルディン・マサングナワードのラファエル・デ・モラエス・ケイロスは、19歳のとき、二つの大切な教訓を学びました。決して学ばない人もいれるほどの教訓です。まず、人生で主を第一に置くときに、すばらしい事柄が起きることを理解しました。さら

にまた、主が与えてくださる才能や機会を生かすためには、自分の夢を修正しなければならないときもあることも理解したのです。

## 力を増すための訓練

ラファエルは福音に根ざした家庭で育ちましたが、それは両親がラファエルの生まれる前に教会に入ったおかげです。「教会の中で成長すると、とても幼いときから福音の原則や戒めを守ることの大切さを教えられます」と彼は語ります。「それでもいつか自分自身の証<sup>あかし</sup>を得なければなりません。」

ラファエルは、ある日セミナーで預言者ジョセフ・スミスの殉教に関するビデオを見たときのことを思い出して語ります。「涙が出てきました。『なぜだろう』と自問して、自分が何を感じているのかじっと考えていると、答えが分かりました。ぼくは、ジョセフ・スミスが預言者であり、この教会が真実であるという聖霊による証を受けていたのです。」

彼はそのときのことを思い出して、ほほえみながらこう言います。「セミナーではすばらしいことが起こります。」

教会でもすばらしいことが起こるものです。祭司定員会で勉強していたとき、祝福師の祝福を受けるようにという気持ちを感じました。「その備えをするために勉強し、それから監督のところに行き、そして祝福師のところへ行きました。ぼくは自分が聞いたことに圧倒されました。主はぼくにたくさんのお話を託してくださっていたからです。ぼくは自分の祝福文が大好きです。」

そのような経験をしてから、ほかにも様々な方法を通して証が強められてきました。聖文研究もその一つです。特にモルモン書が好きです。「ぼくはニーファイを尊敬しています」とラファエルは言います。



**ブ**ラジルの  
ラファエル・  
ケイロスは  
抜群のパレーボール  
選手であり、  
所属する州チームの  
花形選手です。  
妹のガブリエラ(下)は、  
兄としても抜群だと  
思っています。



## 家族の助け

ニーファイと同じように、ラファエルも良い両親から生まれました。彼にとって家族は大切です。特に、たった一人の妹である18歳のガブリエラのことを、とても身近に感じています。

「ほくにとって、ガブリエラは義の模範です」とラファエルは言います。「妹はいつも教会の標準に従っています。」その一つの例として、彼女が朝と夕方と1日に2回セミナーに通っていることを挙げます。

なぜそうしているかを尋ねられると、彼女はいつもこう答えます。「福音を学ぶのが好きなんです。いろんなクラスに出ると、様々な見方があると分かります。それに、夕方のクラスには一緒に

いたいと思う友達が何人もいます。でもいちばんの理由は、御霊を感じるのが好きだからです。セミナーではよく御霊を感じますから。」

ラファエルは、生活の中で福音を第一にするときにこの世の圧力をはねのける力が得られるということを妹の模範から学んでいます。「福音に根ざした見方をすると、自分が直面する問題に立ち向かうことができます」と彼は言います。「福音はほくたちに、誘惑から遠ざかるようにと教えてくれます。誘惑をまったく受けないというわけではありませんが、いつも避けるように努力しています。青少年は、どうやって誘惑を避けるかを学ぶ必要があります。そのためには、誘惑に遭ったらどうするかを前もって決めておくことです。」

ラファエルは、スポーツ選手が直面する誘惑についてよく知っています。「ほくはいつも、スポーツ選手ならみんながしていることをしますが、悪いことはしません。知恵の言葉を破るようなことはしないし、ほかの男の子たちが時々してしまうようなこともしません。末日聖徒として模範を示すように努力しています。」

最初は、友達はほくのやることはおかしいと思ったようです。でも後になって、標準を守っていることで尊敬してくれるようになりました。」

## 主のチームに加わる

ラファエルがバレーボールを始めたのは、あ

る友達の紹介がきっかけでした。2001年、レシフェの同じサッカーチームの友達が、私立高校の何校かがバレーボールの奨学金を出していることを教えてくれました。当時、ラファエルはサッカーの奨学金を受けようとしていましたが、自分の技術はコーチ陣が求めるレベルには達していないことが分かってきました。でもバレーボールについては、自分にはまだ埋もれた才能があるように思いました。「それでほくはバレーボールを始めて、上手になるまで続けました。」そしてとても上達し、ある私立高校の全額奨学金を受けられるほどになったのです。

学校ではレシフェ市の決勝戦で戦い、そしてブラジル国内で最も重要な選手権大会の一つであるブラジル北東地区の大会に出場しました。しかし、成功はそれで終わりではありませんでした。それから間もなく、全ブラジル高校選手権大会出場を目指すペルナンブコ州のチームから誘いを受けました。彼はそのチームに加わり、決勝戦以外は全試合に勝ちました。数々のメダルがそのあかしです。

「ほくはバレーボールの選手になって、チームの一員として試合をすることを学びました。一人では勝つことはできません。お互いに補い合い、助け合わなければなりません。」

同じように、教会においても自分が主のチームの一員であることを学びました。「ほくは教会で、人に教えること、気遣うこと、助けが必要な人はいないかいつも気にかけることを学びました。福音に従った生活を学ぶのに、教会以上に良い場所はありません。主はほくたちみんなに、福音を実践してほしいと願っておられます。だから、ほくは伝道に行くつもりです。」

そのためにラファエルは大学のスポーツ奨学金をあきらめようとしています。幾つかの大学から誘いを受け、その中の1校から奨学金を受けようという気持ちになりました。しかし人生のこの時期、バレーボールのコートでよりも、伝道の地で力を尽くしたいと思いました。そして自分で正しい選択をしていることが分かっています。

ラファエルは語ります。「スポーツで多くの成功を収めてきましたが、伝道ではもっと良い働きをしたいと思います。もしも自分から主の訓練を受けようとするならば、どこに行ってもきっと良い働きができると感じています。」■



**どのチームも、成功するためには選手がお互いにしっかりと結ばれていることが重要です。**  
ラファエルはステーク会長モサルト・ソアレス(上)の指導に従って、伝道の備えをしました。  
現在、ブラジル、ペロオリゾンテ伝道部で働くラファエルはこう言います。「福音に従った生活をする方法を学ぶのに、教会以上に良い場所はありません。」

## 神の王国の教義を教える



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

**扶助協会に所属する祝福**——扶助協会は、姉妹たちが聖文や末日の預言者の教えから福音の教義を学べるように助けています。

**どのようにすれば王国の教義を学ぶことができますか。**

**十二使徒定員会 M・ラッセル・バラー**——「わたしたちは、聖文と生ける預言者の言葉の研究することによって霊的な知識と理解を深めるために、

全力を尽くす義務があります。啓示を読んで研究するときに、御霊は、学んでいることが真実であると心に確認してくれます。こうして、主の御声が一人一人に及ぶのです。福音の教えを深く考え、日常生活で応用するならば、さらに光と真理を受けるための準備を整えることができます。」「(驚くべき主の啓示)『聖徒の道』1998年7月号, 36参照)

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレー**——「皆さんにとって、聖文を読むことが義務ではなく楽しみとなり、神の御言葉を読むことに夢中になるよう望んでいます。聖文を読むにつれて、心が開かれ、霊性が高まることを約束します。最初は退屈に思えるかもしれませんが、やがてそれは、神の御心を知り、御言葉を味わうというすばらしい経験に変わることでしょう。」「(内なる光)『聖徒の道』1995年7月号, 107参照)

**扶助協会の会員には、教えるということについてどのような責任があるでしょうか。**

**大管長 スペンサー・W・キンボール (1895-1985年)**——「預言者ジョセフ・スミスが姉妹たちに約束したものの中には、……英知と光と知識が含まれていました。……扶助協会の姉妹たちは毎日家庭で子供を教え、日曜学校や初等協会、扶助協会や聖餐会で教え、

さらに日々交わす会話の中で教えるときに、その約束を成就しています。……すべての姉妹に勧めます。学校、個人学習、扶助協会は、光と知識を受ける機会です。ぜひその機会を生かすようにしてください。」「(“Relief Society—Its Promise and Potential,” *Ensign*, 1976年3月号, 4)

**教義と聖約88:77-78, 118**——「あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みがあなたがたに伴うであろう。……あなたがたは知恵の言葉を熱心に求め、互いに教え合いなさい。まことに、最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」

**中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン**——「家庭は王国の教義を互いに教え合ううえで中心となる場所です。しかしそのような家庭の支えとなるのは、教会で教えられたり学んだりしたことです。扶助協会の指導者や教師が、効果的に福音を教えるなら、この使命は達成しやすくなります。扶助協会では、教える人たち、つまり母親や、将来神の子供を産み養う人たちを教えているのです。……扶助協会のレッスンが効果的に行われるなら、姉妹たちは霊的に高められ、生活の中で福音の原則を応用する力を養うことができるでしょう。効果的に教えるとは、教える姉妹たちを知り、御霊に頼り、また、姉妹たちが実際の生活の中で主の愛を感じられるように助けることであると信じています。」「(“Teaching: An Entrance to the Heart” [2004年秋の扶助協会オープンハウスでの説教]) ■





# 苦難の中の祝福

中央扶助協会会長  
ボニー・D・パーキン

**実**のきょうだいがわたしを奴隷に売り飛ばしたら、わたしはカンカンに怒り、裏切られたと感じるに違いないでしょう！ けれども、いにしへのヨセフはそうではなかったようです。兄たちは実際にヨセフを奴隷として売りました。後年ヨセフに復讐の機会が訪れますが、長年苦勞したヨセフは何かがいちばん大切であるかをはっきり理解していました。ヨセフは兄たちに自分が何者であるかを明かし、不安がる兄たちを氣遣いました。そこから、ヨセフは自分が苦しみを味わってきた理由を理解していたことが分かります。ヨセフはこう言いました。「しかしわたしをここに売ったのを嘆くことも、悔むこともありません。神は命を救うために、あなたがたよりさきにわたしをつかわされたのです。」(創世45:5)

ヨセフが偉大な人物であったのは、苦難の中にチャンスを見いだすことができたからと言えます。奴隷に売られたことのある人はほとんどいないと思いますが、苦難なら、皆が経験してきたはずです。わたしたちは苦難の中にチャンスを見いだすことができているのでしょうか。

1997年、夫はイギリス・ロンドン南伝道部の部長に召されました。伝道は7月に始まりました。わたしにとっては初めてのことばかりです。初めて一連のゾーン大会を開催し、わたしは宣教師たちと親しくなりたいと思っていました。

7月11日、75人の宣教師と大会を開くために、わたしたちはメードストーンステーキセンターの礼拝堂の壇上にいました。

皆で開会の賛美歌を歌っているときに、突然わたしはひどい吐き気と目まいに襲われました。夫の方を向いて、気分が悪いと告げました。耳鼻科医である夫は、わたしの眼球の異常な動きを見て取り、すぐに二人の宣教師を呼び、わたしを礼拝堂から教室に移しました。初めての顔合わせなのに、何ということでしょう！ 気分は分刻みで悪くなっていきました。夫と宣教師に神権の祝福をしてもらい、すぐさま伝道本部に帰されました。移動中も、車が揺れる度に吐き気と目まいがひどくなりました。やがて、平衡感覚を完全に失い、片方の耳はまったく聞こえなくなりました。検査の結果、内耳に血栓があると疑われ、平衡感覚を取り戻せないか、右耳の聴力が二度と戻らないかもしれないと言われたのです。

恐れと不安と怒りを感じました。夫と自分が神によって召されたことを信じていましたが、「耳が聞こえず、歩くことさえできなくなるとは、一体どうやってこの偉大な業の中で主に仕えられるのか」と思わずにはいられませんでした。家族や親友に助けを求めることもできず、ひどい孤独感にさいなまれました。奇跡が必要でした。召しを受け入れることや、義を行うように努めることによって、神の御心に従ってきたという信念の下、健康にしてくださいと神に願い求めました。自分には奇跡を招くだけの信



楽に乗り越えられる苦難はありません。でも、すべての苦難は経験を与えてくれます。益をもたらす可能性も秘めています。その祝福を手に入れるには、少し首をひねったり、少し身を乗り出したり、もう少しよい聞き手になったりする必要があるかもしれません。

二人の宣教師が  
わたしを  
礼拝堂から教室に  
連れ出してくれました。  
初めての  
顔合わせなのに、  
何ということでしょう!

仰があると自負していました。

治療のかいあって、平衡感覚は徐々に回復しました。しかし、右耳の聴力は戻らず、完全に聞こえなくなっていました。気落ちしました。なぜわたしがこんな目に遭わなければならないの？ 3年間伝道をするためにやって来たのに！ その結果がこれなの？ わたしはヨセフと違い、この苦難から善いことが生じると考えることができませんでした。どちらかといえばヨセフの兄たちのようでした。彼らは、穀物袋からお金が出てきたときに、策略を恐れて言いました。「神がわれわれにされたこのことは何事だろう。」(創世42:28)

そのときわたしは、次のことを忘れていました。水をぶどう酒に変える力を持つ主は、わたしたちの弱さを強さに変えることがおできになるのです(エテル12:27参照)。そして、「あなたがたを苦しめたすべてのことは、あなたがたの益のために、またわたしの名の栄光のためにともに働く」のです(教義と聖約98:3)。

あれから9年がたち、より深い理解の目を持つようになりました。今では、イギリスで経験した

あの苦難から数え切れないほどの祝福がもたらされたことが分かります。例えば、いにしへのヨセフのように、わたしも獄に入れられていたのです。わたしの監獄には鉄格子はありませんでしたが、目まいという監獄に閉じ込められていました。親戚の助けの届かない異国の地にいたことも、ヨセフの苦難に似ています。でも、ヨセフが友人から助けられたように、わたしもともに働く宣教師から助けを受けました。ほとんど初対面の夫婦宣教師たちが伝道本部に来て、到着する宣教師を迎えたり、帰還する宣教師を送り出したりす

る責任を手伝ってくれました。

片方の耳しか聞こえないと、人の話を聞いて理解するのがとても難しくなります。聞こえない側に人がいる場合は特にそうです。必要に迫られ、わたしは話をしている相手にもっと集中するようになり、聞き上手になりました。人を正面から見詰めると、相手の話を把握しやすくなりますし、感情も感じ取りやすくなります。

聴力を一部失うことで、忍耐強く人に接することができるようになりました。障害のある人には特にそうです。試練を受け入れる信仰をはぐくむことができました。また、奇跡的な癒しを一瞬にして与えることがいつも主の御心とは限らないことも、はっきりと分かりました。時には主の御心はその反対のときもあるのです。

同じ苦難をもう一度味わいたいかと問われれば、「いいえ」と答えるでしょう。でも、この試練を通して、また似たような試練を通して霊的に成長できたかと問われれば、「もちろんです」と答えるでしょう。成長もしました。しかし、聴力は失ったままです。試練が名残をとどめることは、往々にしてあります。次に何が起きたでしょう。

2002年の2月、わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長の机の前に座っていました。大管長はこう言いました。「ボニー、健康状態はどうか。」わたしはこう答えました。「健康状態は良好です。でも、伝道中に聴力を失った右の耳はまったく聞こえません。」「左の耳の聞こえ具合はどうか。」「よく聞こえます。」「それじゃ、ただ首をひねるだけでいいんですね。」そう言ってから大管長は、わたしに今の召しを受けるように言いました。ヒンクレー大管長は、自分の能力の中で最善を尽くし、足りないところは調整するという原則をよく知っています。

楽に乗り越えられる苦難はありません。でも、すべての苦難は経験を与えてくれます。益をもたらす可能性も秘めています(教義と聖約122:7参照)。その祝福を手に入れるには、少し首をひねったり、少し身を乗り出したり、もう少しよい聞き手になったりする必要があるかもしれません。しかし、そんな小さな、取るに足りないような努力をしているときに、主の恵みが十分あることに気づくのです(エテル12:27参照)。■



# 扶助協会の音

キム・ウッドベリー

写真/クレグ・ダイヤモンド

ベーカーコンが焼ける香ばしいにおいがロッジに充滿しています。ここには、ヤングシングルアダルトワードの扶助協会の姉妹たちが泊りがけの活動に來ています。短い眠りから覚めやらずベッドに横になっていると、姉妹たちが朝食にキッチンへと集まって來るのが聞こえてきました。聞き慣れた笑い声や話し声、そしてまた笑い声。その弾んだ声を聞いていると、すばらしい姉妹たちをととてもいとおしく思う感情がわき上がってきました。わたしはほほえみ、こう思いました。「これこそ扶助協会の音だわ。」

それから、扶助協会につながる音にどんなものがあるか頭に浮かべてみました。回復されたイエス・キリストの福音について心のこもった証<sup>あかし</sup>を述べる姉妹の声、美しく響き合う賛美歌の歌声、優しく伝える家庭訪問のメッセージ、皆で参加する奉仕活動で軽快に響くミシンの音、そして、

ほかの人の悲しみとともに流す涙。これでも、女性のための主の組織を思うときに浮かんでくる多くの音のほんの一部にすぎません。

その朝、横になって姉妹たちの笑い声や話し声を聞きながら、わたしは自分がいちばん好きな音が何なのかに気づきました。それは、義に満ちた女性たちの、喜び合う音、愛を表現する音、愛に満ちた天の御父の娘であるわたしたちが、姉妹として共通のきずなで結ばれていることをほめたたえる音です。わたしにとって、これこそまさに扶助協会の音なのです。■

キム・ウッドベリーはユタ州バウンティフル東ステーク、バウンティフル第55ワードの会員です。





## 姉妹が3人

ジェシー・ノエミ・P・パトリア

バプテスマを受けてから1年後に伝道の召しを受け、フィリピン・マニラにある宣教師訓練センター(MTC)に入りました。大切な友達ができしたのは、このMTCでのことでした。最初の友達は、わたしの同僚となったロー姉妹で、シンガポールの改宗者です。わたしはロー姉妹の使う言葉を話すことが

できませんでしたし、彼女もフィリピンのどの地方の言葉も話せなかったのので、わたしたちは英語で話すしかありませんでした。

MTCで過ごした16日間はわたしの人生で最も霊的な時間でした。わたしたちは家族から遠く離れていましたが、ある特別な人のおかげでいつも愛されていると感じることができました。その人とは、MTCの所長の奥さんであるルダ・リー・コットレル姉妹です。彼女はいつも笑顔で幸せそうでした。わたしたちを愛し、慰め、そして言葉でも行いでも慈愛を教えてくださいました。

MTCで過ごす最後の夜、ロー姉妹とわたしは、コットレル姉妹が示してくれた愛に感謝の気持ちを伝えるために、何か記念になるものをプレゼントしたいと思いました。でも、何も気の利いたものを持ち合わせていなかったの  
で、同僚はコットレル姉妹に歌をプレゼントしたらどうかと提案しました。わたしはその場で賛成しま

## 家庭のような ところはどこにもない

ファーピサ・M・ツーベ

若い女性クラスの卒業を間近に控えたころ、わたしは教会がほんとうに真実なのかどうか知りたいと苦悩していました。苦しい時を過ごしました。わたしにとって大きな課題でしたが、それは、末日聖徒イエス・キリスト教会が地上における唯一まことの教会かどうか答えを得る時でもありました。

ある日わたしは一人で家にいました。母から家の掃除をし、窓をふいておくように言われていました。しかし母が帰って来たとき、言いつけられていたことがまだできていませんでした。

した。二人とも教会に入って日が浅かったのであまり賛美歌を知りませんでした。そこで、「神の子です」を歌うことにしました(『賛美歌』189番)。

コットレル姉妹は事務室にいました。心ばかりの歌をプレゼントした  
いと伝えると、コットレル姉妹は楽しそうに、じっとわたしたちの歌を聴いてくれました。ロー姉妹と歌っているときに、忘れることのできない霊的な経験をしました。わたしたち3人は人種も文化も言葉も違うことに気づいたのです。同



た。母はわたしをしかり始めましたが、母がしかればしかるほど、わたしはかたくなになってしまいました。母は怒りに任せて言葉を発しました。悪い考えが起り、わたしはサタンの影響力を強く受けてしまいました。わたしは家族に1通の手紙を書き残して、翌日家を出ることにしました。

せわしなく荷物をまとめ終わると、七十人のケネス・ジョンソン長老の話が突然思い出しました。いつも朗らかなレオン・A・アイオノ姉妹が教えてくれるセミナーのクラスで読んだ話です。傍らにあったセミナーのテキストを手にとると、そこに書き込んだ自分の言葉を読みました。「家庭のようなどころはどこにもない。」

わたしは先ほど書いた手紙を取り出すと、破いてごみ箱に捨てました。そのころはまだ霊的に未熟で、祈ることが好きではありませんでしたが、迫り来る誘惑に打ち勝つために頻繁に



祈る必要があると感じました。こうしてわたしは、セミナーの授業で学んだことは真実で正しいと確信するようになりました。両親に心から感謝しています。わたしにたくさんの良い事柄を教え、福音の中で育ててくれました。そのおかげで、少しずつわたしの生活は変わっていったのです。この教会は真実です。■

ファービサ・M・ツベはサモア・ウボル・ファレアシウステーク、ファシツウワードの会員です。

僚とわたしは、愛するコットレル姉妹が分かるように、英語で歌っていました。

そのときまでわたしは、3人の違いのことなどまったく忘れて歌っていたのです。御霊は、わたしたちがだれであろうと、国籍がどこであろうと問題ではないとささやいていました。わたしたち3人は文字どおり天の御父の娘なのです。御霊はどうしてわたしたち3人がここにいるのか、何がそうさせたのか教えてくれました。それはイエス・キリストの福音でした。ロー姉妹とわたしをMTCに導いたのも、コットレル姉妹をすてきな、愛にあふれた人物にしたのも、福音なのです。そして、わたしたち3人は皆神の子供だと教えてくれたのも福音です。■

ジェシー・ノエミ・P・バトリアはフィリピン・バコロド北ステーク、バコロド第5ワードの会員です。

## 預言者の影響

アタ・Y・フレッド・オモクフド

1994年に教会に入ってから、たくさんの教会員から人生に役立つ良い影響を受けてきました。しかし、預言者ゴードン・ビトナー・ヒンクレー大管長から受けた良い影響は言い尽くすことができません。

実際に大管長に会ったことはありませんが、霊的な意味ではまるで知り合いのように感じています。大管長の靈感されたメッセージを読むときはいつも、わたしの肩に手を置いて個人的に話してくれていると感じます。「人生の責務」という大管長会メッセージ(『リアホナ』1999年5月

号、3参照)を読んで、確かに収入を得ることは大事だけれど、幸福になるために億万長者になる必要はないことがよく理解できました。このメッセージを読んで、心に平安を感じ、満たされました。

同じメッセージの中で、もう一つ預言者の勧告に励まされたことがあります。将来仕事に就くための大事な準備期間を無駄にしないようにという勧告でした。それで専門学校で1年間コンピューター技術のトレーニングを受けることにしました。こうしてナショナル・ユース・サービスという教育機関での1年間の勉強が始まりました。時間を賢明に使うことができたと思います。コースを修了したときには、コンピューターシステムを直したり、設定したりできるようになっていました。ナショナル・ユース・サービスで学んだ後に良い仕事に就くことができたのは、コンピューターシステムの知識を学んだおかげでした。

また、友達や親戚との関係が以前より密接なものとなりました。彼らは今、わたしの標準を理解し尊重してくれています。それは預言者の勧告に従って生活してきたからです。何と多大な良い影響を、わたしは預言者から受けてきたことでしょうか。生ける預言者の導きを受けられることに心から感謝しています。■

アタ・Y・フレッド・オモクフドはナイジェリア・ジョス地方部、バウチ支部の会員です。



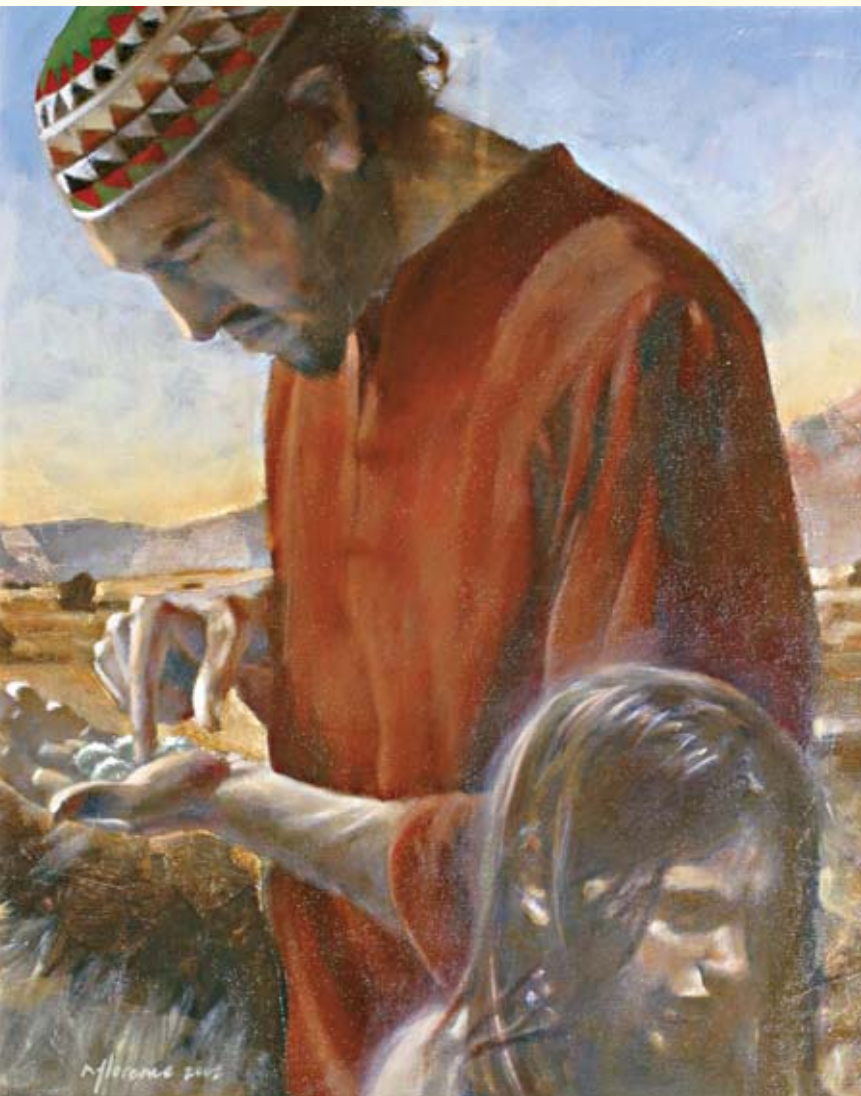
# 山々は 喜び呼ばわりなさい

第6回国際美術コンテスト  
出品作品から

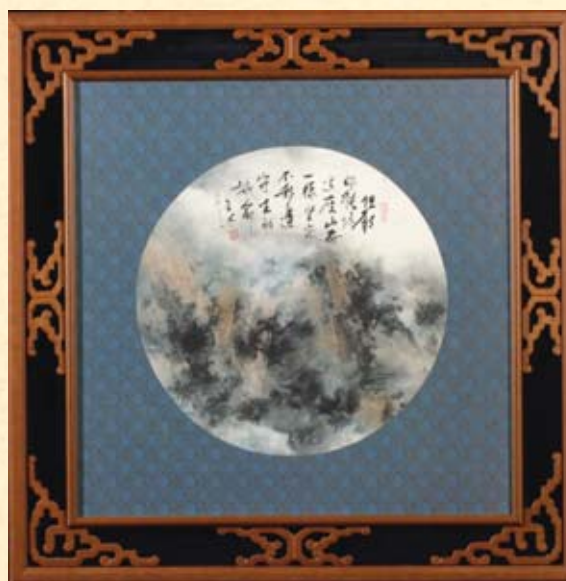
以下にご紹介するのは、11か国の末日聖徒の手による美術作品です。作品によって扱う素材や表現方法は実に様々ですが、それぞれが末日聖徒の信仰や歴史、生活に対する作者の思いをよく表しています。

教義と聖約第128章23節には、キリストとその永遠の創造物が放つ喜びと力が記されています。その力と喜びがどの作品にもみなぎっています。「山々は喜び呼ばわりなさい。すべての谷よ、声高らかに叫びなさい。すべての海と乾いた地よ、あなたがたの永遠の王の驚異を告げなさい。……森と、野のすべての木々は、主をほめたたえなさい。硬い岩よ、喜びの涙を流しなさい。太陽と月と夜明けの星は、ともに歌いなさい。神の子らは皆、喜び呼ばわりなさい。永遠の創造物は、とこしえにいつまでも神の御名をたたえなさい。」

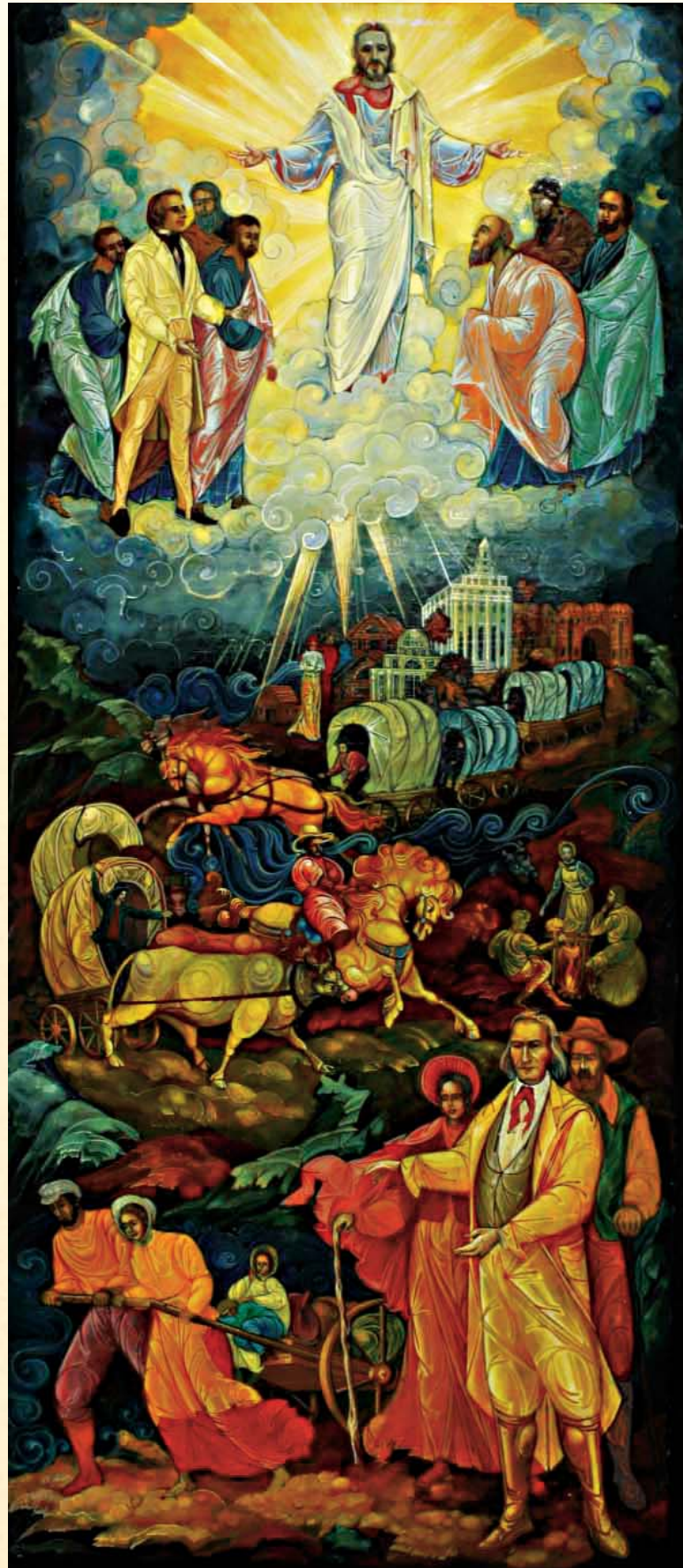




左ページ, 左—  
 「エリヤよ, 来なさい」  
 リューバ・ブルサック  
 (チェコ共和国);  
 右—「聖任」  
 ローレンス・O・  
 エヒジエーター  
 (ナイジェリア);  
 右ページ, 左上—  
 「石を選ぶ—  
 ヤレドの兄弟」  
 ネーサン・フローレンス  
 (ユタ州);  
 右上—「命の木」  
 メーベル・「ベル」・ララ  
 (チリ);  
 左下—  
 「果たされた約束」  
 テオドリコ・P・  
 キューマガン・ジュニア  
 (フィリピン);  
 下—  
 「確固として戒めを守る」  
チェンチンタイ  
 鄭金大 (台湾)



左—「わたしには、  
この囲いにはない  
他の羊がある。」  
ホセ・リベロス(チリ)；  
下—「リーハイの夢」  
ダマリス・プーガ・デ・  
ガルシア(グアテマラ)；  
右—「神聖な受け継ぎ」  
マリア・マカロワ  
(ロシア)





左—「イザヤの昇天」  
ワルフ・バーシュ  
(チェコ共和国);

右上—  
アルメニアン・  
ニードルポイントレース/  
メルバ・ヒンドイアン・  
エムラジアン  
(アルメニア);



右中—「一緒に歌おう」  
チェンレイユイン  
陳瑞應(台湾);

左下—「山々は  
喜び呼ばわりなさい」  
ブレント・レイコック  
(カナダ);

右下—「示現」  
ウゴリーニ・バレリアーノ  
(イタリア)



# 崖<sup>が</sup>っ縁には近寄らない

お酒を飲まずに  
皆を家まで送り届ける  
運転手の役目を  
果たせば、  
パーティーに行っても  
よいのでしょうか。

ギリアン・キャンベル

女がにやにやし  
ながら話を続けます。  
「これから、週末はそこが最  
高の場所になるわ。みんなで

パーティーを開いたらクラスの人たちがもっと  
もっと親しくなれると思うの。例えば、ジェレミー・ロバー  
ツってさ、お酒を飲むとすごくおもしろいのよ。」

わたしはその少女を思わず見詰めてしまいました。こんな  
言葉が彼女の口から出るなんてショックでした。もっと驚い

**高**校生のこ  
ろ、1月の雪の  
降る夜にわたしは友  
達の誕生日パーティーに参加していま  
した。リビングでは、女の子たちがだらしない格  
好で横たわり、楽しそうにおしゃべりをしたりケーキをほお  
ぱったりしていました。わたしはソファにもたれて、みんなに  
囲まれていました。

「お姉さんがね、今週、家の離れに移ったのよ。」一人の少

たことに皆口々にだれそれがあればパーティーがおもしろくなると、ここにいない人たちの名前を挙げ始めたのです。信じられない気持ちでわたしは周りを見回しました。わたしの心は凍りついていきました。「もうすでに友達はお酒に手を出しているのかしら。」友達の中にはお酒を飲んでいる人もいることは知っていましたが、突然、全員がそうなかもしれないと思えてきたのです。仲良しの友達の中にいて、自分は独りぼっちのような気がして、思わずうなだれてしまいました。

そこへ一人の友達がケーキを食べながら来て言いました。「もちろんわたしも行くわ。でも飲まずにみんなを家まで送り届ける運転手役になるわ。別にお酒なんて飲みたくないし。」さらに彼女はほほえみながらわたしにこう言いました。「ギリアン、あなたもいらっしゃいよ。お酒を飲まない同士仲良くしましょうよ。」

わたしは少しほっとしました。それなら大丈夫そうに思えたからです。「行ってもいいんじゃないかな。みんなを無事に送り届けられるし。パーティーに行ってもお酒を飲んだり悪いことをしたりしなければいいんだわ。それでみんなと一緒にいられるわけだから。」そう考えました。

「いい話じゃない。絶対わたしも行くわ。そしてみんなをしっかりと送り届けてあげるわ。」自分の中でそう言う

声聞こえてきました。みんなは大賛成と言わんばかりにうなずきました。そして話は別の話題に移っていきました。



## 中心に近くいれば安全である

「知恵の言葉の精神には、主から特に禁じられているものを除いて、あらゆる面で節

制することが含まれます。……

わたしは若いころに友達と一緒に遊園地へ行って、『空飛ぶ円盤』というアトラクションに乗ったことがありました。お皿を逆さにしたような形で、回転しながら進みます。円盤の回転が速まると遠心力によってはじき飛ばされてしまうため、ほとんどの人は円盤の中心に行こうとします。縁にいる人は中心に近い友達にしがみつきます。すると、二人ともはじき飛ばされてしまうのです。間もなくわたしは、遠心力は中心部分にはそれほど作用しないことに気づきました。そして中心に寄っていたため、円盤が回転している間も飛ばされずに済みました。けれども、端にいる人にしがみつかれると危ない目に遭います。こうして、中心に近くいれば安全であることを学んだのです。」

### 第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

「義にかなった神の娘の持つ徳」

「リアホナ」2003年5月号, 109-110

次の日の夜、わたしはステーキの青少年を対象としたファイヤサイドに出席しました。ステーキ会長は次のように話しました。「若い兄弟姉妹の皆さん。今皆さんは、人生の中でとてつもない誘惑にさらされる時期にいます。そこでわたしは皆さんに最良のアドバイスをしたいと思います。崖<sup>がけ</sup>縁には決して近寄らないでください。パーティーに行くと、自分はお酒を飲まないからと言うようなことはしないでください。お酒を飲んだ友達の運転手役としてパーティーに行ったりしないでください。そのような場に自分を置いてはいけません。一歩足を踏み入れた途端、皆さんは危険に身をさらすことになるのです。わたしは今まで、何の前触れもなく飲酒の問題や重大な道徳的問題に突然直面したという人と面接したことは一度もありません。人は少しずつ、一歩ずつ道を踏み外していくのです。ですから、最初の一步を踏み出してはいけません。皆さんが最初の1杯を口にするよう誘惑される状況に身を置かなければ、知恵の言葉を破るような問題を引き起こすことは決してないと、わたしは確信をもって申し上げます。」

ステーキ会長の言葉にわたしは、びっくりしました。まさにわたしが直面していた問題そのものに関する話だったからです。パーティーに行くと、自分はお酒を飲まないからと言うだけでは十分ではないことを知りました。その夜わたしは、お酒が出るパーティーに

は決して行かないと決心しました。

この経験を通して、主がわたしたちの問題を理解しておられることと、時に指導者を通して導いてくださることを学びました。パーティーに行ってもアルコール飲料に手を出さなければ、わたしの高校生活に何も問題は起こらなかったかもしれません。しかし、主の戒めを守るならば、主は確かに祝福してくださいます。わたしは、崖<sup>がけ</sup>縁から遠ざかることによって、主の導きに従うことができたのです。■

ギリアン・キャンベルは、ブリガム・ヤング大学第16ステーキ、BYU第43ワードの会員です。



# デンマークの 力強い信仰

この国において  
教会には古い歴史がありますが、  
新しく建設されたコペンハーゲン神殿は  
キリストのもとに行きたいと望む人や家族の  
信仰の中心となっています。

ドン・L・サール

教会機関誌

オーレ・ラウン-ペーターセンは16歳のとき、父親から末日聖徒イエス・キリスト教会のバプテスマを受ける許可をもらいました。バプテスマはコペンハーゲンの閑静な住宅街にある新古典主義様式の建物の中で行われました。そこは、1931年に十二使徒定員会のジョン・A・ウイツォー長老（1872-1952年）が奉獻して以来、集会所として使われてきた建物でした。

後になって、伝道を終えたオーレ青年は、この同じ建物で父親にバプテスマを施したのです。そして2004年5月、この建物の改装工事が終わってデンマーク・コペンハーゲン神殿として奉獻されたとき、オーレ青年をはじめとする多くのデンマークの会員たちは、懐かしい思い出の詰まった建物の再出発に感無量でした。

通行人の多くもこの建物に荘厳さを感じるようですが、教会員にはなぜそこが神聖な場所であるかが分かっています。ですから通りがかったのが教会員なら、神殿の横にある小さな中庭に足を踏み入れて腰をかけ、縦長の窓や尖塔を眺めながら、永遠について思いをはせるかもしれません。

オーレ・ラウン-ペーターセンは現在、コペンハーゲンから電車で3時間ほど離れたユラン半島にあるデンマーク・オーフスステーク、オーフスワードの監督を務めています。最近首都コペンハーゲンを訪れると、そこでは生活が幾らか慌しいことに気づきました。そのとき、神殿が頭に浮かびました。「ここコペンハーゲンには天の御父に近づける場所があります。」

より近く

デンマークの会員たちが、神殿が近くにあることを喜ぶ理由はたくさんあります。けれども、突き詰めれば天の御父にさらに近くなれるということに尽きます。

デンマーク・コペンハーゲンステーク、ロスキレワードのティーネ・アンデルセンは「天の御父をこんなに近く感じられる場所はほかにはありません。御霊がとても強く感じられます」と言います。彼女は帰還宣教師で、両親は責任を受けて神殿で奉仕しています。父親のニルスは神殿が奉獻される前のオープンハウスでガイドを務めたときのことを敬虔な面持ちで話してくれました。「人々の反応を見るだけでも、すばらしい経験でした。」彼は途切れることがなかった見学者の長い列を思い出し、言葉を詰まらせます。「長年伝道活動に携わってきましたが、教会員でない人たちが自発的にやって来るのを見るのは初めてでした。戸別訪問をしなくても来てくれたのですから。」

オープンハウス期間に神殿を訪れた見学者数は2万5,000人に上りました。その中でアンデルセン兄弟の記憶に残っているのは、ヨーロッパ各地で豪華な教会の建設に携わってきたある建築家のことです。彼は神殿で説明できない何かを感じたのに、建築物の美しさと品質に言及する以外、その思いを表現するすべを知ら



# 静かで

なかったのです。

霊的な事柄を言葉で説明しようとして苦勞するのは、珍しいことではありません。その理由をデンマークの会員たちは、国が豊かで、国民の満足度が高いため、大多数の人たちは神の必要性を感じて

いないからだと説明してくれます。

ティーネ・アンデルセンはある友人について話してくれました。この若い女性は、デンマークではよくあることですが、ボーイフレンドと同居どうせいしています。この友人はボーイフレンドとの問題をティーネに相談するのですが、その関係を解消しようとはしません。なぜなら、彼女はそれ以外の生き方を知らないからです。

福音のおかげで「違った考えができるようになります」とティーネは説明します。「ほかの人たちは、今の生活に必要なものがあるからとりあえず幸せだと感じているのかもしれませんが、

でも、自分たちが生まれる前に何を、これからどこへ行こうとしているのか分からないでいるのです。」



左ページ——  
デンマーク・  
オーフステーク、  
オーフスワードの  
オーレ・ラウン-  
ペーターセン監督。  
上——  
デンマーク・  
コペンハーゲン神殿。  
左——デンマーク・  
コペンハーゲン  
ステークに住む  
アンデルセン家族、  
マリアンヌとニルス、  
そしてティーネ。





上—デンマーク・コペンハーゲンステーキの  
トマス・リングハイム(左)、妻のハイディ(中央)と  
子供たち。

右—デンマーク・オーフスステーキの  
オーラ・ローゼ・ニルセン(右上)とキアステン・ボクホンコ。



大切です。」イエンセン  
監督も、青少年は純潔  
の律法を知るだけでな  
く、その律法がなぜ与  
えられたかも理解しな

ければならないし、福音の教義が世間一  
般の慣行と異なるときは、「世間の人たち  
と同じことをしなくてよい」のだと理解す  
る必要があると言います。

トマス・リングハイムは以前コペンハー  
ゲンステーキ、オルレッドワードで監督を務  
めていて、妻のハイディはワードで扶助協会  
の副会長としての責任があります。二人は24  
歳から4歳まで、8人の子供がいますから、若

い世代が乗り越えなければならない壁についても何かと知っ  
ていると言えるでしょう。リングハイム姉妹は、親は子供に教  
える機会を有効に活用しなければならないと言います。それ  
は、その小さな機会の積み重ねが子供たちの証を築く助けに  
なるからです。自分自身の証を堅固にするため、彼女は毎週  
神殿に参入する目標を立てました。「日常生活の中で自分が  
変わったと感じます。人間関係で助けになっています。」

デンマークでは「教会員の数が少なく、決して楽ではあり  
ません」とリングハイム兄弟は言います。「しかし、逆に大き  
な祝福でもあると思います。わたしたちは皆、何かを擁護す  
ることを学ばなければならないからです。」末日聖徒は信仰  
について語ることを恐れる必要はありません。「実際、わた  
したちが自分の信仰について率直に話せば、ほとんどの人  
は尊敬してくれますよ。」

### 「人と違うことを気にしない」

親として大切なことは子供を教える機会を逃さないことだ  
と語るのは、コペンハーゲンステーキ、フレズレクスベアワ  
ードのティム・イエンセン監督です。監督とカレン夫人にはベ  
ニツラとミイという、10代になったばかりの娘が二人います。  
イエンセン監督は次のように言います。子供といるときに聖  
霊の促しに注意を払っていれば「打ち解けた雰囲気の中で  
証を伝える機会がたくさん見つかるはずです。」イエンセン  
姉妹は導きを求めてよく主に心を向けると言います。ある日、  
姉妹は上の娘が教会に行きたくない気持ちを克服できるよう  
祈ったそうです。ベニツラはその祈りの力を感じました。後  
に彼女は、優しい促しを胸に感じたと言います。

若い人々が直面する問題を考えると、親は子供たちに「人  
と違うことを気にしない」ように教えるべきだとイエンセン監  
督は言います。姉妹も同意見です。「信じていることに忠実  
であるように子供に教えなければなりません。」

社会情勢が課題になっている場合もあります。例えば、最  
近デンマークでは合法的に飲酒できる年齢が16歳に下げら  
れました。世間には、若いときに飲酒を始めれば責任ある飲  
酒習慣を教えることができると信じ、もっと低年齢で子供に  
飲酒を勧める親もいます。しかしそれは、実効のない机上の  
空論にすぎません。もう一つ例を挙げましょう。ポルノグラ  
フィーは1970年に合法化され、どこでも入手できるようにな  
りました。そのような中で成長し大人になった世代は、その多  
くがポルノグラフィーを無害だと信じているのです。

カレン・イエンセンは次のように言います。「娘たちに体は神  
聖なものだから自分の体を尊重するよう教えることは非常に

### 遠くさかのぼる歴史

教会はデンマークで長い歴史があります。宣教師が最初  
にデンマークを訪れたのは1850年のことでした。デンマー  
ク語は、英語に次いでモルモン書が発行された2番目の言語  
だったのです(1851年)。しかし、伝道が始まった初期と第二  
次世界大戦後に多くの改宗者がユタ州に移住しました。デン  
マークは小国で、歴史的にも地理的にも、そして商業的にも  
他国とのつながりが強く、デンマーク人は雇用や学業のため  
に外国に出て行く傾向が強いのです。これらの要素や、宗教  
を私的なものととらえる傾向が、ここ数十年間教会の発展が  
伸び悩んできた要因かもしれません。人口550万人のこの国  
にあって、現在末日聖徒はおおよそ4,500人です。

しかし、デンマークの教会にとって、教会員歴の長い会員  
たちの霊的な経験や指導者として積み重ねてきたものは貴  
重な財産です。

1956年にバプテスマを受けたオーラ・ローゼ・ニルセンは、オーフスワードが支部の時代に2度支部長を務めた経験があります。古い会員のキアステン・ボクホンコによると、ニルセン兄弟と妻のエスター(故人)は優しく、いつも静かに人を助けていたと言います。家族歴史の楽しさを知ってからというもの、ニルセン夫妻は自分たちの余暇を惜しみなく提供し、30人以上の会員たちの家族歴史をまとめる手伝いをしました。ニルセン兄弟は今も毎日のように市の古文書保管所を訪れ、資料を集めています。「大好きなんです。始めたらやめられませんよ。」教会に加入して以来、福音についても同じように感じてきたそうです。バプテスマを受けて帰る道すがら、あまりのうれしさに家までずっと歌い続けたと言います。「バプテスマを受けてから疑ったことは一度もありません。」

1952年にバプテスマを受けたボクホンコ姉妹も、地域の教会の発展に尽くした一人です。すべての補助組織の指導者として奉仕した経験があり、教会資料の翻訳にも尽力しました。ボクホンコ姉妹は自分の子供時代の経験から、オーフスワード初等協会の25人の子供たちが同じような道徳観を持つ友人を見つけるのは難しいかもしれないと知ってい

ます。しかし、信仰を捨てる必要がないことも知っています。自分が子供のとき、周りの人たちは彼女の標準をいつも知っていて、その標準を尊重してくれたからです。

信仰を实践する会員の生活が、本人のみならず周りの人にも祝福をもたらすことがあります。オーフスのカーリン・メセルは教会員の家庭で成長し、夫のイエスパーには職場で知り合いました。2001年に二人が結婚したとき、イエスパーは教会員ではありませんでした。彼は今、妻の模範を人生の大きな祝福と感じています。その模範もあって、イエスパーは2003年にバプテスマを受け、2004年、コペンハーゲン神殿が奉献されて2か月を過ぎたころに、結び固めを受けました。

イエスパーは福音の標準と価値観を受け入れました。家族の大切さはその価値観の一部です。メセル夫妻は、子供ができたならカーリンが家庭にいられるように物質的なものを犠牲にすることを選びました。イエスパーは言います。「大きな家が欲しいのか、カーリンに家においてほしいのか、決めるのはわたしたちです。」



上—コペンハーゲン  
神殿の側面。

下—コペンハーゲン  
ステーキ、  
フレズレクスベア  
ワードの  
ティム・イェンセン監督  
と妻のカレン、  
娘のペニツラ(左)  
とミイ。





**上—デンマーク・オーフスステークの  
イエスパー・メセル、カーリン・メセル夫妻と  
アンヌ・クリスティーナ・ラーセン(右)。**

**右上—コペンハーゲンステークの  
ブリッタ・ラスムセン(左)、ケル・ラスムセン夫妻と  
デンマークの歴史を刻んだ洋だんす。**



### 独身としての生活

神殿結婚がデンマークの独身会員の目標であることはもちろんですが、住んでいる地域が広範囲にわたっていることと猛烈な忙しさのため、独身の末日聖徒同士の交流はなかなか難しいのが現状です。

ティーネ・アンデルセンによると、オーフスステークとスウェーデンの会員たちも招待しないかぎり、コペンハーゲンのヤングアダルトのダンスやパーティーの出席は通常20人から30人です。スウェーデン南部の都市マルメは比較的近くにあり、コペンハー

ゲンの高いビルの上から眺めると、二つの国を分けるバルト海の海峡に細長く伸びる橋がはっきり見て取れるほどです。デンマーク語とスウェーデン語は似通った言語ではありますが、教会のダンスパーティーなどではヨーロッパ諸国の共通語となっている英語が使われることが多いようです。

オーフスのアンヌ・クリスティーナ・ラーセンだったら、どの言語もおしゃべりにも気軽に加われます。母国語のデンマーク語以外に、ドイツ語、英語、スペイン語の3つの言語を流暢に話せるからです。オーストリアに留学中にバプテスマを受けた彼女は、一時期グアテマラで仕事をし、ワシントンD.C.地域で伝道をしました。現在大学で心理学を専攻し、インスティテュートにも出席しています。インスティテュートのクラスに定期的に参加するのは、わずか2、3人にすぎません。

しかしアンヌは、結婚の機会をただ漫然と待っているわけではありません。今までと変わらず、特に神殿が近くなった今はなおさら、自分の霊的な目標に向かって着実に歩んでいます。神殿へ行くと「新しい力と平安が得られ、物の見方が変わります。神殿は自分が何者であるか思い出させてくれる所です。」アンヌは、人生の選択はすべて福音の原則に基づいて決断しています。「何をするにしても、福音はわたしたちの行動の基ですから。」

### 基を築く

ブリッタ・ラスムセンは1975年に夫と一緒にバプテスマを受けました。福音の証は福音に従って生活することで得られたと彼女は言います。扶助協会に出席し始めたとき、「この姉妹たちは信じていることを実践している」と思いました。以来、その模範に従おうといつも努力してきました。

彼女は少女時代の仲間と45年間交際を続けています。そして、夫婦でガイドをしていた神殿のオープンハウスに皆を

コペンハーゲンのヨハン・コックとリサ・コックは、正しい優先順位を設定するとき、その祝福は長期にわたることを知っています。コック夫妻は結婚して間もない1968年に改宗し、7人の子供たちを教会で育てました。2004年にコペンハーゲン神殿のオープンハウスのガイドとして奉仕しているとき、息子のクリスチャンと学校が一緒だったある男性が神殿を見にやって来ました。彼はこう言いました。「自分はクリスチャンをよく知っているし、この建物はクリスチャンにとってとても大切なものだと思っているのだから、どうしても来なければならないと思ったのです。」

コック夫妻は何年も前に、初めての神殿参入をスイスで果たしました。それ以来、往復8時間の距離をものともせずストックホルム神殿で奉仕する責任を受けて、家族に模範を示してきたのです。家の中には神殿の絵を掛けていました。二人は子供たちが福音の中で力強く成長できるよう、家族の祈り、家庭の夕べ、家庭学習セミナーなど、あらゆる手段を用いてきました。

長年神殿参入のために外国まで行かざるを得なかったので、「こんなに近くに神殿があるのは特別な祝福です」とコック姉妹は言います。2001年にコペンハーゲンステークの会長の召しを解任されたコック兄弟は、神殿の建設を会員たちの成熟のしるしととらえています。同時に夫妻は、神殿が教会員でない人たちへ与える影響にも感銘を受けています。神殿のオープンハウスで見学中に結び固めについて説明すると、「仲の良い夫婦は、二人が互いに見詰め合う様子で分かりました。そのような夫婦にはたいい『自分たちにもできずか』と尋ねられました」とコック兄弟は言います。

招待し、証を述べることができました。「全員何か特別なものを感じたようでした。」ラスムセン姉妹は、自分の言葉がいつか皆の生活に何らかの影響を及ぼすように願っています。

夫のケルが福音を知るようになったのは友人を通してでした。もともと哲学的見地から宗教を検証することが多かったケルですが、聖霊の証によって強い証を築くことができたのです。ケルはこう語っています。「わたしたちの課題は、この宗教は人の作ったものではないと人に話すことです。この教会には神の権能が与えられているのです。」

エリサベト・アンデルセンは10代後半の女の子で、学校でただ一人の教会員です。まだ自分に証があるかどうか自信がありません。「証があると感じるときもあるし、ないと感じるときもあります。」しかし彼女は、証を見つけるのに最適な場所において、最適なことをしています。エリサベトの父親であるイェンス・アンデルセンは現在デンマーク・コペンハーゲンステーキの会長を務めています。家では家族の祈りと家庭の夕べが行われています。両親は忠実さの模範を示し、エリサベトは証を強める助けになると教えられてきた霊的な事柄を実践しています。彼女の宗教や生き方について質問する友達には進んで福音の真理を伝えています。

信仰、祈り、悔い改め、従順など、基本的な福音の原則を実践することによって人生観が変わるとアンデルセン会長は言います。「生活の中の喜びがより深くなります。わたしが妻や子供たちについて感じる喜びは、永遠の観点に立ったものです。福音の祝福をほんとうに喜んでいる教会の家族は、そうした基本的な原則を実践している家族です。」

コペンハーゲン神殿はそんな永遠の観点をより強固にする助けとなっていると、彼は言います。その影響は、どんな年代の会員も感じることができます。娘のエリサベトが神殿に来たとき、彼女も感じました。それは「平安です。ほかのどんな場所でも感じられない平安がここにはあるのです。」

アンデルセン会長は、ステーキワードの指導者は神殿での奉仕がすべての会員の目標であると教えていると言います。神殿で聖約を結び、それを守ることから得られる霊的成長が、デンマークにおいて教会員数が伸びる鍵になるからだと言います。「伝道の業は、自らが経験する改心の自然な結果だと思えます。会員たちが改心すれば、人に手を差し伸べられるようになり、何とかして働きかけた」と心から望むようになるのです。」■



上—コペンハーゲン  
神殿の尖塔。

下—コペンハーゲン  
ステーキの

ヨハン・コック、

リサ・コック夫妻。

二人は神殿で奉仕する  
責任を受けている。

ヨハンは以前

ステーキ会長を務めた。



## カーステンの受けた試練

アンジェラ・ディーナー

**今**から30年ほど前、大変な妊娠期間を経て二人目の子供カーステンが生まれました。生まれてすぐに彼女の心臓に重大な欠陥があることを医師が発見しました。カーステンは直ちに小児病院の集中治療室に移されました。夫は、保育

器に入れられた小さな体に手を置いて、彼女にとってこの世で初めての神権の祝福を授けました。それはこの地上に誕生してくれた彼女への歓迎の贈り物でした。

わたしはそれから来る日も来る日も、集中治療室のガラスの前に立っては幼い娘が必死に生きよう

と闘う姿を見守っていました。触ることさえ許されず、何を望めばよいのかさえ分かりませんでした。

赤ちゃんを置いてわたし一人が退院した後、わたしたち夫婦は神殿に行きたいと思いました。幼いカーステンのために物理的には何もできませんでした。ただひたすら主と医師たちを

信じるのみでした。当時、最も近い神殿はスイスにあり、わたしたちの住むハンプルクからは遠く離れていましたが、どうなるか分からない将来に備えて、力

臓の  
**心**欠陥のため、  
カーステンは  
生まれてすぐに  
集中治療室に  
入れられました。  
わたしたちは必死に  
生きようとする彼女を、  
なすすべもなく  
見守るばかりでした。



を得て来なければならぬと感じたのです。わたしたちは娘のために信仰の限りを尽くしました。

同じころ、医師たちは娘の病気は珍しい心臓欠陥であり、当時の医療技術では手術は不可能だという診断を下しました。この病気にかかった患者の生存率は非常に低いものでした。しかし5週間後、カーステンを家に連れて帰ることができました。肉体的には大変だったでしょうが、彼女の霊はとても快活で、学ぼうという意欲に満ちていました。また、家族とともに生活するのを楽しんでおり、兄のことが大好きなのがわたしたちにも分かりました。

カーステンが4歳のとき病状が悪化し、日に日に衰弱していきました。祈り、断食し、神殿に行った後で、わたしたちは彼女をミュンヘンに連れて行って心臓手術を受けさせることを決心しました。ミュンヘンの医師たちが、カーステンと同じような難しい病気の患者を治したという話を聞いたからです。実際、医師たちは、心臓のあらゆる部分に処置を施さなくてはなりません。心室を小さくし、穴をふさぎ、心臓の弁を正常にする必要がありました。非常に高度な技術が要求されました。わたしたちはカーステンのことをとても心配し、ワード全員がともに祈ってくれました。

1980年5月21日、カーステンは手術を受けました。そして最も危険な状態を何とか脱し、集中治療室から別の部屋に移ったとき、わたしたちはもう大丈夫だとすっかり安心していました。そのとき、大変なことが起きたのです。手術を受けた心臓弁から遊離した小さな血液の固まりが脳に詰まり、ほんの数分のうちに右半身が完全にまひ

し、話すことができなくなってしまいました。カーステンの目は恐れと悲しみに満ちていました。わたしたちにとっても大変な試練の時でした。わたしは今でも、主人と二人でミュンヘンの電話ボックスに立ち、絶望的な思いで監督に電話したときのことを覚えています。それからの数日は、ワードの多くの会員から、慰めの手紙を受け取りました。また、断食することによっても、カーステンを勇気づける力や、この試練を受け入れるだけの力を再び得ることができました。

それから何年もの間、あらゆる治療を受ける中で、彼女が見せるどんな小さな進歩もわたしたちにとっては喜びでした。カーステンが小学校に上がるころには、健康も快復し、普通の小学校に行かせることができました。使える方の左手で何でもできるようになりました。右足が強くなったため、水泳や自転車、乗馬もできるようになりました。彼女は人生を謳歌おうかしていました。だれかが彼女の少し変わった歩き方を笑ったときには、ただカーステンのたどってきた人生を写した写真を見せるだけで、笑いは称賛しんぜんへと変わりました。

カーステンは祖父母や親戚の愛を豊かに受けて育ちました。ワードの会員たちもよく助けてくれました。彼女はそれのお返しとして、出会う人すべてに福音の喜びを伝えました。我が家で最も多くの友人を教会に連れて来たのは彼女でした。

高校を卒業すると、カーステンはとても努力してセールスの訓練プログラムを修了し、運転免許も取得しました。彼女に合わせて少し改良した車を使って、さらに自立できるようになった彼女は、ヤングシングルアダルトの集会

に出席したり、ステーキの責任を果たしたりすることもできるようになりました。1999年には、1年の休暇を取って、フランクフルト神殿で奉仕宣教師として働きました。

カーステンは子供が大好きで、とても身近に感じています。おいやめい、初等協会の子供たちもみんなカーステンが大好きです。彼女はわたしたちの模範であり、人はどんなにつらい試練にあっても心をかたくなにせず、快活な態度で周りを明るくできるということを示してくれています。

2003年、とても愛にあふれた一人の若者がカーステンの前に現れ、次第に大切な人となっていきました。彼は帰還宣教師で、忠実な末日聖徒の家庭で育った人でした。2004年8月、二人はフランクフルト神殿で結び固められました。二人は今、ともに人生のチャレンジを乗り越えようとしています。

わたしたちの子供のうち二人は、肉体的な障害を持っています。子供に障害を願う人はいませんが、もしそのようなことが自分の身に起こった場合は、心から受け入れ、学び、困難と闘って乗り越えなければなりません。聖霊のささやきを聞き、それに従うことができるように備えるのです。天の御父は、わたしたちが成長するために、この地上でどのような試練が必要かを御存じです。わたしはよく、子供たちを慰め励ますために次のような言葉を語って聞かせました。「肉体的な障害を持つのはこの世だけで、この世の人生は永遠に比べたらとても短いよ。」

■  
アンジェラ・ダイナーはドイツ・ノイミュンスターステーク、ランゲンホルンワードの会員です。





## どきなさい!

デボラ・シャトー

**弟**とわたしは仕事を終えて家に向かう途中、長くて暗いまっすぐな高速道路を走っていました。何マイル走っても擦れ違う車は1台もありません。疲れ切っていたわたしは、何とか目を覚ましていようと、道がどうなっているのかよく見てみることにしました。そこは急な坂道で、登りはわたしたちの走っていた車線も含めて2車線ありましたが、反対側は1車線だけでした。坂が急だったため登り車線の一つは、追い越し車線になっていました。

わたしは対向車線のことが気になり始めました。急斜面では大きなトラックなどブレーキが利かなくなることがあると知っていたので、1車線しかない所で、トラックのブレーキが利かなくなり、前に車がいたらどうなるのだろうと思ったのです。大変な事故になりかねません。その晩、ほかに車がないのは幸いだと思いました。

しばらくして、もう一度その状況について考えました。わたしは真ん中の追い越し車線を走っていたので、ブレーキの利かなくなったトラックは、前を走る遅い車を追い越すために、わたしの車線に入って来るだろうと思いました。何かあった場合には、右の車線(訳注——合衆国の片側2車線道路では、追い越し車線は左側の車線となる)の方が安全だという思いが心に浮かびました。しかし、もう遅いし、ほかに車もないからどこを走っても同じ

だろうと考え、左の車線を走り続けました。山の頂上に近づいたときにまた同じ思いが浮かびました。坂の反対側から近づいて来るトラックがこちらからは見えないし、向こうからもこちらが見えないことが分かったからです。

突然、鋭い叫び声が聞こえました。「どきなさい!」わたしは非常に驚き、すぐにハンドルを切って右の車線に移りました。その瞬間、山の向こうから光が近づいて来て、クラクションがけたたましく鳴り響きました。目を覚ました弟の目に、真ん中の車線を通って行くトラックが飛び込んできました。その後すぐ、1台のステーションワゴンが左端の車線を通って、頂上を越えて来ました。わたしはあまりのショックに車を道路わきに止め、心を落ち着けようとしました。自分と弟は死んでいたかもしれないと思うと、怖くてたまりませんでした。

わたしは驚きました。それまで、聖霊は静かな細い声で語りかけられると聞いてきましたが、あのときは叫ぶような声だったのです。しかし数年して、確かに聖霊は静かな細い声で話しかけてくださったことに気づきました。わたしの心に、大きなトラックが来るかもしれないという思いを与えてくださり、もう一度、右の車線に移った方がよいと促してくださいました。自分が静かな細い声に聞き従わなかったことに気づいて、わたしはがく然としました。そしてついには一刻の猶予も許されなくなり、御霊は叫ばざるを得なかったのです。

その経験をした後、わたしは常に御霊の促しに聞き従って生活しようと決意しました。もう二度と御霊の促しを疑うことなく、静かで細い声にすぐに従おうと決心しました。■

デボラ・シャトーはソルトレーク・グラナイトパークステーク、ハーモニーパークワードの会員です。

## わたしのヒーロー

ホルヘ・デトレフセン

**19**72年11月のある日、学校へ行くためにバスに乗ったときには、その日が自分の人生で最も大切な日になるうとは思っても寄らせませんでした。

わたしは当時13歳の普通の少年でした。とにかく学校で楽しく過ごすことがいちばんの関心事でした。わたしには多くの友達いましたが、彼らもわたしと同様でした。でも、オスカー・イタリアだけは違いました。ほんとうによく勉強し、いつも優等生でした。でも、わたしは彼のことはあまりよく知りませんでした。とても静かな少年だったのです。

その日教室に行くと、オスカーは襟に「わたしにとっては大切。あなたにとっては?」と書かれたバッジを付けていました。当時その地域の教会では、会員が福音を分かち合うのを助けるためのプログラムを行っていました。このバッジを付けて、人からそのことを尋ねられたときに、家庭のタベや家族について説明できるようにしていたのです。

わたしはオスカーに「それは何だい」と尋ねました。彼は3か月前にバプテスマを受けたばかりで、家族の中で自分だけが末日聖徒の会員であることを話してくれました。

わたしに興味があることが分かると、彼はその日、休み時間の度に、救いの計画について話してくれたり、モルモン書をくれたりしました。モロナイ書第10章3節から5節に記された約束を読んで聞かせてくれ、もしもわたしが祈るなら、心に燃えるような気持ちを感じ、モルモン書が真実であるという確信が与えられると話してくれました。オスカーはすばらしい会員宣教師でした。わたしは彼の言葉を信じました。

翌朝、母が近所の食料品店に買い物に行っている間、わたしはモルモン書を読もうと決心しました。最初のページを読み終わるか読み終わらないかのとき、わたしは祈りたいという気持ちになりました。自分の部屋に行き、ベッドの横にひざまずきました。それまで祈ったことはありませんでしたが、キリストの名によって神に尋ねなければならないと言われたことを思い出しました。わたしはモルモン書が真実かどうかを尋ね、神が生きておられるかどうかを教えてくださいとお願いしました。クラスメートが証してくれたような気持ちを感じられるようにと期待していましたが、数分して母が家に帰って来たのが聞こえ、祈っている姿を見られたくなかったわたしは、立ち上がって学校へ行く準備をしました。

バスに乗って学校へ向かう途中、頭の中ではいろいろな考えが戦っていました。「これはほんとうなのか、それともそなのか。祈っても何も起こらなかったじゃないか」とわたしは思いました。そして、あれこれと疑念がわいてきました。

ところが、なぜかは説明できませんが、バスから学校の歩道に降り立った途端、それらの疑念は消え去り、真実だと分かりました。とてもはっきりと分かったのです。

教室の入り口にいたわたしのところへオスカーが話しにやって来ました。わたしが「ぼくは君の教会の会員になるよ」と言うと、彼は信じられない様子でした。近くで聞いていた友達の一人が、ほかの何人かにそれを伝えると、みんながわたしたちの周りに集まって来て、なぜ宗教を変えるのかと尋ねてきました。わたしのことを、頭がおかしくなってしまう

たのだと言いました。わたしは質問に答えることができず、泣きだしてしまいました。ようやくみんな離れて行き、オスカーと二人だけになりました。すると突然、圧倒されるような喜びが心に満ちあふれました。それまで一度も感じたことのない気持ちでした。まさしく、オスカーが話してくれた、燃えるような気持ちです。それは、わたしの決心が正しいことを確認するために与えられたのでした。

次の日、わたしはオスカーが持って来てくれたバッジをもらい、二人で堂々とそのバッジを付けました。

それから30年後、わたしは青少年のファイヤサイドで話をするために故郷に帰りました。「ヒーローになるには」というテーマで、ニ-

ファイヤアビナダイ、アルマを自分自身のヒーローとするにはどうしたらよいかについて、詳しく話すつもりでいました。しかし、話す順番を待っている間、友達のオスカーと彼の母親の姿が聴衆の中に見えました。30年前のあのすばらしい日のことがよみがえり、準備した話の代わりに、わたし自身のヒーローについて話すことにしました。福音を分かち合おうという決意を持ち、わたしの人生の行く末を変えてくれた若い男性、オスカー・イタリアについてです。■

ホルヘ・デトレフセンはアルゼンチン・コルドバシエラスステーク、ピラベルグラノワードの会員です。

その日教室に行くと、オスカーは襟に「わたしにとっては大切。あなたにとっては？」と書かれたバッジを付けていました。



### 読んで靈感を受けました

ある使徒の言葉を読んだときに、特別な経験をしました。その使徒は証を得る方法について、単純ながらも効果的な方法を教えていました。読み終えた途端、証が揺らいでいる友人のことを思い出しました。わたしはすぐに、その友人に手紙を書きました。もちろんその使徒の言葉も書き添えました。

手紙を彼女の家に持って行き、声を出して読みました。そして、読み終えてから証をしました。その場に宿った力強い御霊は、言葉で表現することができないほどでした。友人は驚き、その言葉を紹介してくれてありがとうと言ってくれました。

そのときから、友人は変わり始めました。聖文を読み、もっと頻繁に祈り、教会にも出席するようになりました。互いの家を行き来するときは、いつも霊的な思いや証を分かち合いました。今では、彼女はワードの中でとても活発な会員となりました。彼女は今、わたしが会長を務めるローレルクラスで、副会長として奉仕しています。

アルゼンチン・  
プエノスアイレス西ステーク  
サントスルガレスワード  
イエシカ・フロレンシア・マルティン

### 記者の愛が伝わりました

2005年3月号に掲載された「コロンビアの聖徒たち——強さの模範」を読み、胸が高鳴りました。記事を書いた人の深い愛が伝わってきました！記事で紹介された人々に対する深い信頼が文面に表れていました。コロンビアの聖徒たちと、コロンビアに住むすべての人にすばらしい未来が訪れることを記者が強く信じていることがよく分かりました。

わたしの国にも、同じような問題が山積しています。わたしの国の人々と



コロンビアの人々には共通点がたくさんあります。ですから、この記事を通じて、わたしたちが抱える問題をほとんど解決するヒントが得られました。例えば、小さな家庭菜園を作って野菜を栽培すること、家族に対する責任を果たすこと、自立する力を増すことなどが、簡潔かつ明快に書かれています。それらを行えば、間違いなく、霊的にも強められるでしょう。このような実用的な助言に従うなら、だれもが食糧を得ることができます。さらに、困窮時のためにも十分な食糧を貯蔵することができます。何と賢明で、実用的で、時宜に合った記事でしょう。

ウクライナ・ドニプロペトロフスク地方部  
ザポロージェ・コーリチツッキ支部  
オルガ・クリープコ

### 救い主の愛

初めて『リアホナ』を読んだとき、御霊を感じ、涙が止まらないほどの喜びに満たされました。聖文と同じように、『リアホナ』はわたしたちを強め、導いてくれます。また、救い主イエス・キリストがわたし

たちを真に愛してくださったという強い証を保てるようにしてくれます。

パナマ・コンセプション地方部  
ボルカン支部  
イダリア・マルチネス・デ・モラレス

### 家庭の夕べが改善されました

我が家の家庭の夕べは、以前よりも魅力的で、楽しいものになりました。子供たちを教えるために『リアホナ』を羅針盤として使うようになったからです。『リアホナ』に掲載されている預言者の教えや信仰を鼓舞する経験談などを家庭の夕べで分かち合うことによって、さらに家族が一致してきました。

エクアドル・グアヤキル東ステーク  
グアヤカネスワード  
イレアナ・モルビオニ・デ・ブルアス



**デ**ンマーク・コペンハーゲン神殿は、  
デンマークの会員の  
信仰のよりどころとなっている。

フレズレクスベアワードのティム・イェンセン監督と  
その家族(表紙), そして, デビッド・ヤンセンや  
カミラ・ホーンズレット(上)など  
ソボーワードの若い会員たちにとってもそうである。